

The background of the cover is a scenic photograph of a river in Japan, likely the Kikyo River in Kanazawa. The river is calm, reflecting the sky and the surrounding cherry blossoms. In the distance, a stone bridge with multiple arches spans the river. The banks are lined with mature cherry blossom trees in full bloom, their pink and white flowers framing the scene. In the foreground, a white stone railing is visible on the right side, and more cherry blossom branches hang down from the top left. The sky is a clear, bright blue with a few wispy white clouds.

Fukugin
JOURNAL

2016
桜花号
SPRING

【共同調査】

観光客アンケート調査 最終報告

福井県立大学 江川 誠一講師
株式会社福井銀行情報支援チーム

【フォーカス】

伝統工芸「越前箆笥」

【調査報告】

「福井銀行景気動向調査」調査結果



- 01 福井県立大学、福井銀行共同調査
観光客アンケート調査 最終報告
- 09 健康ライフ Vol.7
血管若返り生活術
- 10 調査
福井銀行景気動向調査 調査結果
- 20 フォーカス 伝統工芸Vol.6
越前筆筒
- 24 特別企画
福井銀行と「競技かるた」
- 26 海外ビジネスレポートVol.7
タイから見るTPPの影響
- 28 主要経済指標

表紙 福井城址（御本城橋）

福井城は、関ヶ原の戦いの功により福井藩主となった結城秀康が築城した城で、柴田勝家が築城した北ノ庄城を取り囲む形で拡充し、6年をかけて慶長11年（1606年）に完成しました。一説によれば本丸・二の丸の縄張りは、秀康の父徳川家康の手によるものといわれ、家康の命により全国の大名が手代普請にあたったようです。明治維新後は、福井城の内堀を残して他の堀は埋め立てられ市街地として整備されました。



◀ 由利公正広場

由利公正（三岡八郎）は、旧松岡藩の中下級武士の家に生まれました。幕末の福井藩主松平春嶽公に抜擢され、横井小楠の指導のもと藩の財政を立て直しました。明治政府では、財政面の責任を担い、太政官札の発行や五箇条の御誓文の原案を作成するなど、福井だけでなく近代日本の国づくりに大きく貢献しました。

広場は由利公正居宅跡に近い足羽川の幸橋南詰上流側にあり、福井市中央公園に建立された公正の銅像を移設して平成26年3月に整備されました。銅像の目線は公正が師事した横井小楠の寄留宅跡（幸橋北詰下流側）を向いています。福井城内堀公園には「旅立ちの像」と名付けられた横井小楠と由利公正が並ぶ像もあります。

福井県は、幕末から維新にかけて近代日本の幕開けに活躍した由利公正を主人公とした大河ドラマの誘致を目指しており、当行も県と共同で「由利公正展」を開催するなど誘致に向けた機運醸成や知名度向上に努めています。



「旅立ちの像」
横井小楠（右）と由利公正（左）

▶ 天守台跡（左）と「福の井」（右）と呼ばれる井戸

築城当時、高さ約37mの四層五階の大天守閣が造られましたが、寛文9年（1669年）の大火で、この壮大な天守閣は焼失し、以後再建されることはありませんでした。また、控天守台の横手の井戸「福の井」は福井の由来になったとも伝えられています。





観光客アンケート調査 最終報告

～ 来 福 観 光 客 の 財 布 と 足 跡 ～

福井県立大学 地域経済研究所 江川誠一
株式会社福井銀行 情報支援チーム

筆者は、北陸新幹線金沢開業後の県内観光地における観光動向を把握するため、観光客アンケート調査を平成27年8月に実施した。福銀ジャーナル 爽秋号(2015年10月)にて、単純集計を中心にした中間報告を発表したが、本号ではその後に行ったクロス集計結果を踏まえ、最終報告をさせていただきたい。なお、既に中間報告にて掲載したグラフ等については、紙面の都合により省略しているので、同号と併せて参照いただければ幸いである。

《観光客アンケート調査の概要》

タ イ ト ル：観光客アンケート

調 査 目 的：北陸新幹線金沢開業後の県内観光地における観光客の動向を把握するためにアンケート調査を行った。特に、どのような観光客が何にお金を使っているのか(=財布)と、どこどこを組み合わせて周遊しているのか(=足跡)については既存のデータが不足しているため、本調査の重点的な項目として位置づけられる。

調 査 地 点：①東尋坊、②恐竜博物館、③一乗谷朝倉氏遺跡

④道の駅「若狭おばま」、⑤三方五湖P A

調 査 対 象：調査地点を訪れている国内観光客

調 査 期 間：平成27年8月20日(木)～23日(日)、10～17時 ※④、⑤は22、23日に実施

調 査 手 法：学生調査員(延べ39人)による聞き取り調査

調 査 項 目：属性(性別、年齢、住所、グループ人数)、訪問頻度、交通手段、宿泊有無・宿泊地、観光消費額、訪問地他

有効回答数：1,326人

	2015/8/20 木(くもり)	2015/8/21 金(くもり)	2015/8/22 土(くもり)	2015/8/23 日(晴れ)	合計
東尋坊	58	83	60	173	374
恐竜博物館	147	103	73	96	419
一乗谷朝倉氏遺跡	62	75	15	56	208
道の駅「若狭おばま」			84	132	216
三方五湖P A			50	59	109
合計	267	261	282	516	1,326

1. 来福観光客の動向

メインとなる年齢層は各地で異なっている

東尋坊と道の駅「若狭おばま」は、幅広い世代が訪れる観光地となっており、前者では30～40代、後者では40～50代がそれぞれ中心となっている。一方で、一乗谷朝倉氏遺跡や三方五湖PAでは50歳代以上が半数を大きく超えており、高い年齢層の方に支持されていることがうかがえる。恐竜博物館は30～40代で半数強を占めており、アンケートに回答していないその子どもたちを加えた親子連れが多いものと推定される。

関東比率が大きく高まっている

福井県における県外客の発地別入込状況は、平成26年では関西41.9%、中京26.3%、関東6.8%であったが(福井県観光営業部観光振興課「福井県観光客入込数(推計)平成26年」)、嶺北の3観光地では、関東からの観光客の割合がこれよりもかなり多くなっている。特に一乗谷朝倉氏遺跡では約3割を占め、関西や中京を上回っている。

宿泊客のうち3割が県内に泊まっていない

嶺北の3観光地と道の駅「若狭おばま」では、宿泊者のうち約3割は県外のみ宿泊者である。一乗谷朝倉氏遺跡では県内外の両方に宿泊する割合が高い。三方五湖PAでは県外のみ宿泊者が約7割を占めている。

県内宿泊地は、嶺北の3観光地ではあわら市を中心にそれぞれが立地する地域での宿泊が多くなっているが、各観光地においてその傾向はやや異なっている。東尋坊ではあわら市が半数を占めるのに対し、恐竜博物館では同市に福井市、勝山市が迫り、一乗谷朝倉氏遺跡では福井市があわら市よりも多くなっている。県外宿泊地は嶺北の3観光地では石川県が7～8割強を占めているのに対し、嶺南の2観光地では京都府がトップとなり、次いで道の駅「若狭おばま」では石川県と滋賀県、三方五湖PAでは兵庫県、滋賀県などとなっている。

自動車での訪問が圧倒的に多くなっている

交通手段は自動車が圧倒的な割合となるなか、嶺北の3観光地ではレンタカーやJR(新幹線)の利用も一定程度存在している。

観光地同士の結びつきには様々なパターンがある

東尋坊と恐竜博物館の周遊パターンには共通点が多い。一方で、一乗谷朝倉氏遺跡はこれらとは様相が異なり、永平寺、丸岡城等との周遊が比較的多くなっている。また嶺南では、道の駅「若狭おばま」が小浜市内および嶺南地域を中心に周遊しているのに対し、三方五湖PAでは県外から嶺北まで広域的に周遊している。

宿泊客の観光消費額がやはり大きくなっている

県内での一人当たり観光消費額は、県外観光客のうち県内宿泊者が約22,000～29,400円、県外観光客のうち県外のみ宿泊者が約5,900～15,000円などとなっている。東尋坊が他より高くなっており、県外観光客比率の高さと、飲食や土産・買物等における消費額の高さが影響している。県内観光客の日帰り客における消費額は、道の駅「若狭おばま」で比較的高くなっている。



2. 観光地別の特徴

(1) 東尋坊

福井県を代表する観光地であり、年齢階層別の差が比較的小さくバランスの取れた構成となっているが、その中心となるのは40代(25.4%)、30代(19.3%)である。発地は関西(35.3%)が最も多く、次いで中京(25.7%)、関東(19.3%)の順となっており、他観光地と比べて北陸(石川県、富山県)や福井県内からの観光客割合はやや低くなっている。

おおよそ半分(51.6%)が初めての来訪者であるが、嶺北の他の観光地と比べて複数回訪れているものの割合(以下、「リピーター率」と記す)が高くなっている。年齢層が上がるに連れてリピーター率が高くなる傾向にあり、60代では6割(60.4%)、70代では4人のうち3人(75.7%)が2回目以上の訪問となっている。さらには関西や中京からのリピーター率の高さ(48.5%、58.3%)も特徴的である。

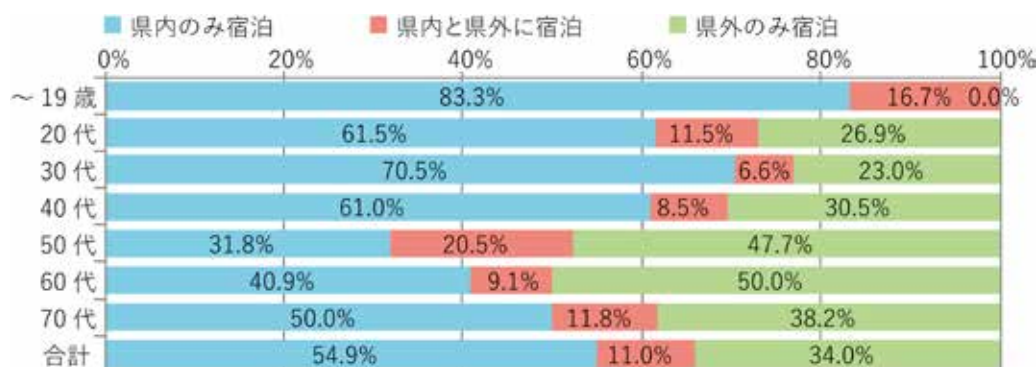
宿泊比率は9割弱(87.2%)に上り、他の4観光地と比

べて突出している。宿泊客のうち県外にのみ宿泊するものの割合は概ね3分の1(34.0%)となっているが、その割合は50代と60代においてはほぼ半数(47.7%、50.0%)に上っている【図表1】。また、関東からの観光客は、その半数を大きく超える割合(56.9%)が県外のみ宿泊であり、県内のみ宿泊はかなり少なくなっている(15.3%)【図表2】。県内宿泊地は、隣接するあわら市が半数(51.2%)を占め、次いで福井市(12.1%)、地元の坂井市(11.6%)などとなっている。

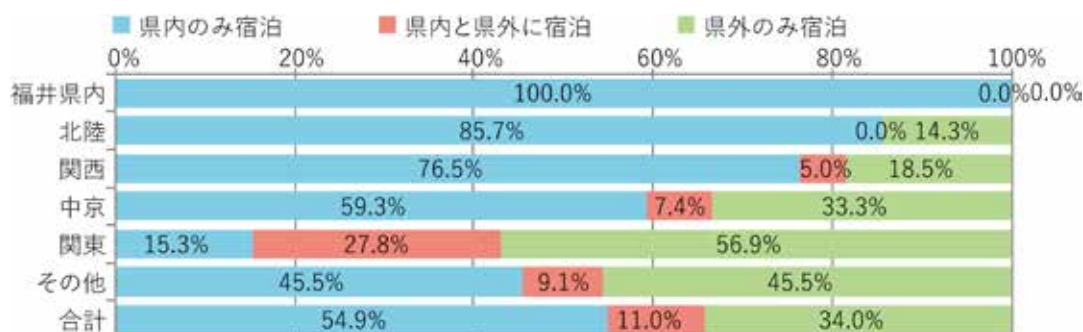
他の訪問地は、石川県が最も多く、次いであわら温泉、恐竜博物館・かつやま恐竜の森、永平寺、芝政ワールドの順となっている。

福井県内での一人当たり平均観光消費額は、他の観光地を訪れたものよりも高くなっており22,235円となっている。宿泊比率の高さもさることながら、飲食や土産・買物等における消費額の高さが影響している。

図表1 年齢階層別宿泊地 (東尋坊)



図表2 発地別宿泊地 (東尋坊)



(2) 恐竜博物館

年齢層は30代、40代で半数以上を占め(23.2%、28.6%)、これらの世代とその子どもが中心顧客になっているものと思われる。発地は関西(37.5%)が最も多く、次いで中京(25.8%)、関東(12.4%)の順となっているほか、他観光地と比べて北陸(石川県、富山県)(10.5%)からの観光客の割合が高くなっている。

初めての来訪者は7割を超えている(71.1%)。年齢によるリピーター率の差は、他の観光地と比べて小さく【図表3】、当地における特定の層への訴求力の強さが影響しているものと思われる。発地によるリピーター率の差も小さくなっており、これもまた当地の特徴点の一つである。

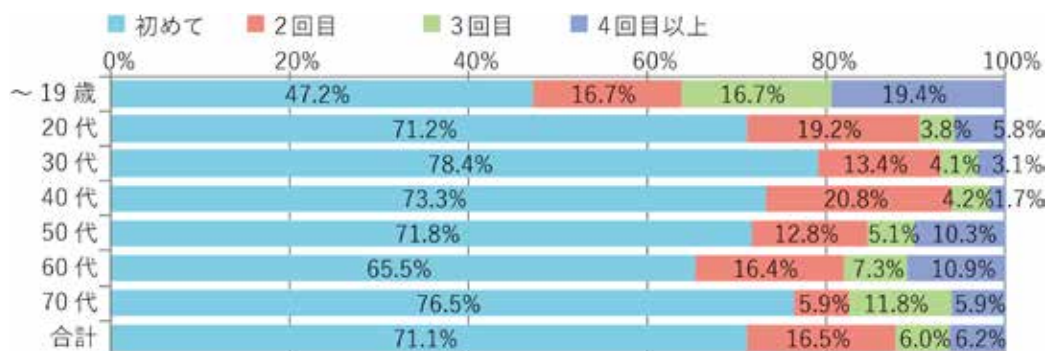
3人のうち2人が宿泊客(66.8%)となっているが、その割合は40代では高く(76.7%)、20代では低く(59.6%)となっている。宿泊客のうち県外にのみ宿泊

するものの割合は3割強(31.8%)となっているが、その割合は年齢が上がるほど高まる傾向が顕著であり、60代では45.5%、70代では62.5%を占めている【図表4】。また発地別に見ると、北陸(石川県、富山県)からの観光客の7割強(71.4%)は県外にのみ宿泊していることが特筆される。県内宿泊地は、あわら市が最も多く3割(29.8%)を占め、次いで福井市(21.5%)、そして地元の勝山市(13.6%)などとなっている。

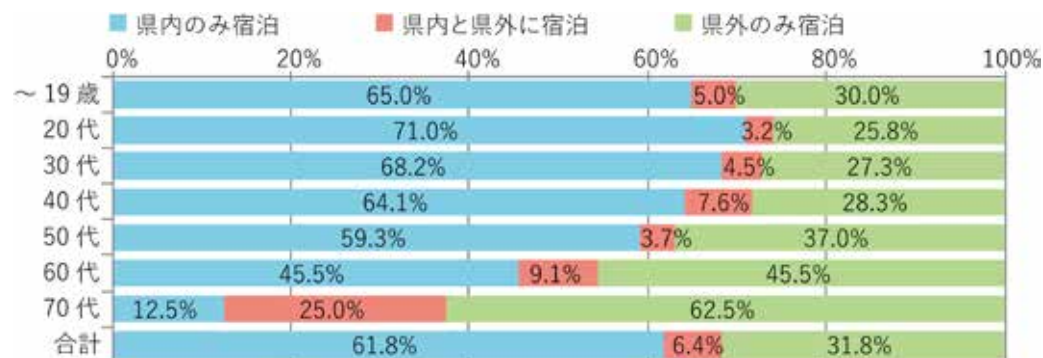
他の訪問地は、石川県が最も多く、次いで東尋坊、芝政ワールド、あわら温泉、永平寺の順となっており、東尋坊を訪れた観光客と共通した傾向がみられる。

福井県内での一人当たり平均観光消費額は16,206円となっている。入場料・利用料が比較的高くなっている。

図表3 年齢階層別来訪回数 (恐竜博物館)



図表4 年齢階層別宿泊地 (恐竜博物館)



(3) 一乗谷朝倉氏遺跡

訪れる方の年齢層が高く、50代以上が半数を大きく超え(56.7%)、3人に1人が60代以上となっている(35.6%)。発地は関東からの観光客が約3割(29.3%)を占め、今回の調査対象地点では最もその割合が高くなっている。次いで関西(23.6%)、福井県内(19.2%)、中京(16.8%)の順となっており、嶺北の他観光地と比べて県内観光客の割合が非常に高くなっている。40代までの年齢階層では関西からの観光客の割合が最も高くなっているのに対し、50代以上では年代が上がるに連れてその割合は劇的に減少している【図表5】。

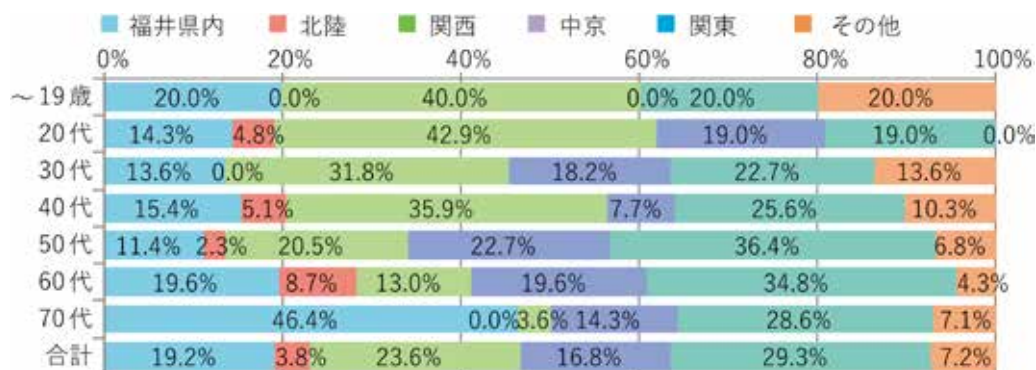
初めての来訪者は7割強(72.1%)となっている。東尋坊と同様に年齢層が上がるに連れてリピーター率が高くなる傾向にあるが、発地別に見ると関西からの観光客はほとんどが初めての訪問(95.9%)となっている点が極めて特徴的である【図表6】。

3人のうち2人が宿泊客(66.8%)となっている。宿泊客のうち県外にのみ宿泊するものの割合は3割強(31.7%)となっているが、年齢や発地によるこの割合の差は、他の観光地と比べて小さい。県内宿泊地は、地元の福井市が最も多く(36.8%)、あわら市は2番目となっており(24.2%)、次いで勝山市(9.5%)などとなっている。

他の訪問地は、東尋坊や恐竜博物館と異なる傾向があり、永平寺が最も多く、次いで石川県、東尋坊および恐竜博物館・かつやま恐竜の森、丸岡城の順となっている。

福井県内での一人当たり平均観光消費額は15,571円となっている。県外観光客のうち日帰り客の消費額が他の観光地と比べて高くなっている。

図表 5 年齢階層別宿泊地 (一乗谷朝倉氏遺跡)



図表 6 発地別来訪回数 (一乗谷朝倉氏遺跡)



(4) 道の駅「若狭おばま」※

幅広い年齢層が訪れているが、同様の傾向にある東尋坊よりも年齢層が高めになっており、50代(25.9%)、40代(23.6%)でほぼ半数を占めている。発地は関西が6割弱(59.3%)と他を圧倒しているが、次いで福井県内(17.6%)、中京(14.4%)の順となっている。嶺北の観光地と比べて関東からの観光客(2.8%)、三方五湖PAと比べて北陸(石川県、富山県)からの観光客(3.2%)がそれぞれ低い割合になっている。

初めての来訪者はおおよそ半分(53.2%)であり、4回目以上の頻繁に利用されている方が4人に1人(25.0%)に上っている。年齢層が上がるに連れてリピーター率が高くなる傾向にあるが、4回目以上のヘビーユーザーの割合は年齢層を問わず高くなっている【図表7】。

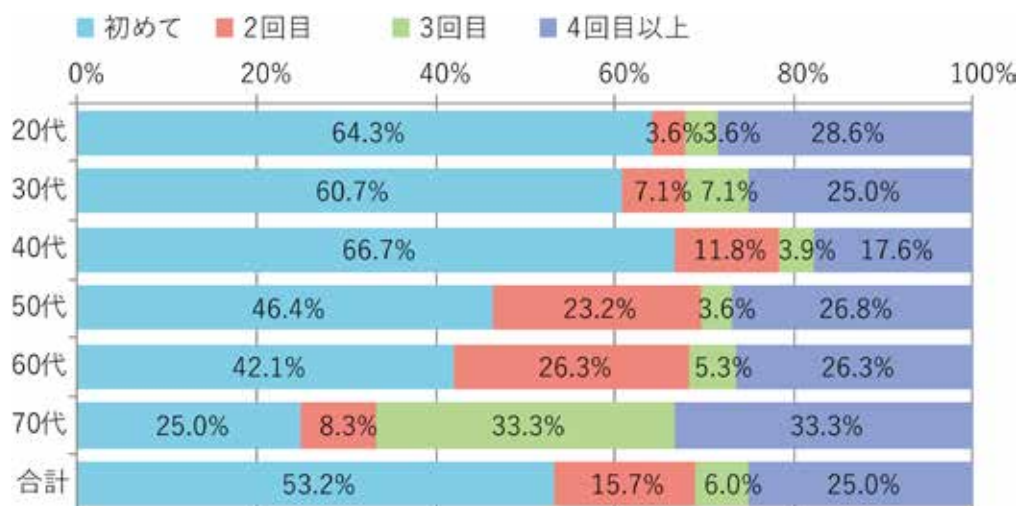
宿泊比率は約3割(29.2%)であり今回の調査地点で最も低くなっており、日帰り客が約7割(68.5%)を占めている。これを年齢階層別に見ると30代における

宿泊比率(39.3%)がやや高くなっている。発地別に見ると、関西からの観光客のうち約7割(70.3%)が日帰り客であり、福井県内からはほとんど宿泊していない(日帰り：94.7%)。宿泊客のうち県外にのみ宿泊するものの割合は3割強(31.7%)となっており、この割合は嶺北の3観光地と同レベルだが三方五湖PAと比べると低くなっている。県内宿泊地は、小浜市が6割(60.5%)を占めており、これも三方五湖PAとは全く異なる傾向になっている。

他の訪問地は、その他福井県内(小浜市内等)が突出しており、嶺南各地の複数の観光地が続いている。

福井県内での一人当たり平均観光消費額は9,358円であり、嶺北の観光地と比べて低くなっている。これは宿泊比率の低さが影響しているが、一方で日帰りの県内観光客における消費額が4,924円と、嶺北の3観光地に比べて約2倍と高くなっている。

図表7 年齢階層別来訪回数 (道の駅「若狭おばま」)



注) 19歳以下のサンプル数は少数しか得られなかったためグラフから省略している。

※当地は、嶺南において氣比神宮に次いで入込客数の多い観光地であるが、道の駅という一般の観光地とはやや異なる特性を持つことに留意する必要がある。

(5) 三方五湖 P A ※

訪れる方の年齢層が高く、50代以上が全体の半数を超えている(55.0%)。発地は関西(40.4%)が最も多く、次いで福井県内(22.0%)、中京(13.8%)の順となっている。嶺北の観光地と比べて関東からの観光客(2.8%)が少なく、道の駅「若狭おばま」と比べて北陸(石川県、富山県)(10.1%)からの観光客が多くなっている。

初めての来訪者はおおよそ半分(52.3%)であり、4回目以上の頻繁に利用されている方の割合が2割(19.3%)を占めている。年齢層が上がるに連れてリピーター率が高くなる傾向は道の駅「若狭おばま」と同様だが、ヘビーユーザーの割合は50代以上で飛び抜けて高くなっている【図表8】。

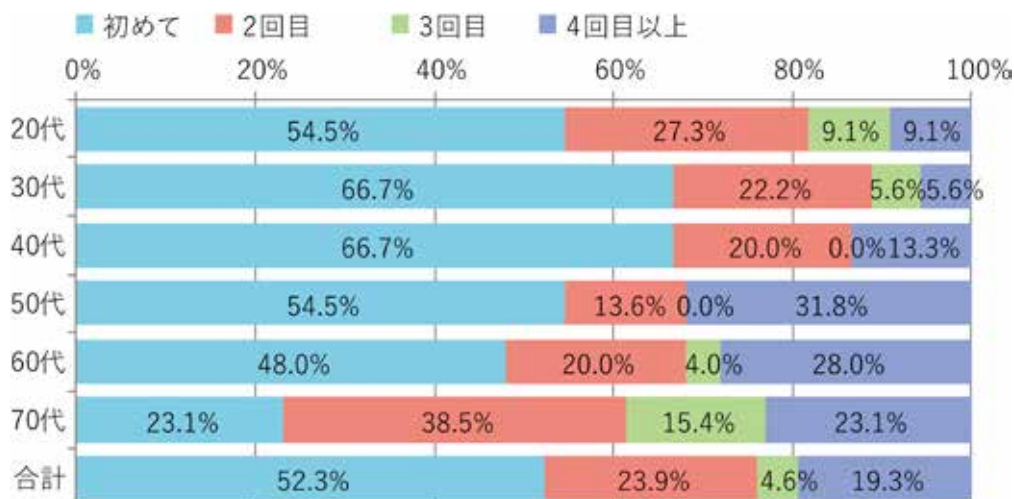
宿泊比率は半分強(53.2%)であり、嶺北の3観光地よりは低く、道の駅「若狭おばま」よりは高くなっている。年齢階層別では40代と70代における宿泊比率(80.0%、76.9%)が高くなっている。発地別では福井

県内からの宿泊比率(29.2%)が道の駅「若狭おばま」よりもかなり高くなっている。宿泊客のうち県内にのみ宿泊するものの割合は3割弱(27.6%)、県外にのみ宿泊するものの割合は約7割(69.0%)となっており、他の4観光地と比べるとその比率は概ね逆転している。県内宿泊地は、嶺北の福井市、坂井市、あわら市、勝山市から嶺南の敦賀市、小浜市などと、県内全域にまたがっている。

他の訪問地は、京都府が最も多く、次いでその他福井県内(小浜市内等)、石川県、その他都道府県などが多く、広域的に周遊していることがうかがえる。

福井県内での一人当たり平均観光消費額は7,871円となっており、他の4観光地に比べて最も低くなっている。項目別の消費額がそれぞれ相対的に低く、観光地としてではなく休憩地としてのPAという位置づけが影響しているものと思われる。

図表 8 年齢階層別来訪回数 (三方五湖 P A)



注) 19歳以下のサンプル数は少数しか得られなかったためグラフから省略している。

※当地は、舞鶴若狭自動車道の全線開通(平成26年7月)とともに設置された新しい観光スポットであるが、高速道路のPA(パーキングエリア)という一般の観光地とはやや異なる特性を持つことに留意する必要がある。

3. 今後の方向性

北陸新幹線金沢開業により、嶺北の観光地においては関東からの観光客の流入が既に一定程度進んでおり、この新しい方向からの人の流れを捕まえ、そして一層引き込むために、その傾向を把握し対応していく必要がある。一方で、金沢開業は嶺南における関東や北陸（石川県、富山県）からの観光客増加にまでは結びついていない。舞鶴若狭自動車道も含めた高速交通体系の整備による効果を、県内全域へと行き渡らせることが重要であるとともに、北陸新幹線の県内延伸および大阪までの全線開業を早期に実現することが肝要である。

今回の調査地点のなかでPAを除いた4か所の観光地では、宿泊観光客のうち約3割が石川県等の県外にのみ泊まっており、すなわち少なからぬ割合の観光客が、県内観光地を巡りつつも宿泊費は県外へ流出させていることになる。今回の調査結果では、県内宿泊者とそうでない観光客における消費額の差は歴然としており、県内宿泊者の割合を増やし県内への経済波及効果を高めるために、これまで以上に各方面への働きかけを強める必要がある。その際、県内最大の温泉観光地であるあわら温泉周辺の振興策が重要となることは当然として、調査結果から導かれたように各地における宿泊需要も相当数に上るため、観光地と宿泊地を結びつけた有機的な観光振興策が求められる。一方で、恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡では、多くの観光客が訪れながらも飲食費や土産代等の現地での消費額が抑えられている可能性がある。観光客の消費意欲を顕在化させ、経済効果と顧客満足度を高めるため、飲食、土産・買物にもこれまで以上に力を入れる必要がある。

メインとなる年齢層や周遊ルートは各観光地において異なっており、それぞれの特性と顧客ニーズに合わせた観光振興策が求められる。総合的な満足度を高めるため、適切なプロモーション手法に加え、主要観光地を核としてそれらと中小の観光地をテーマで結んだ周遊ルートを設定し、打ち出していく必要がある。例えば、一乗谷朝倉氏遺跡を訪れた観光客は、永平寺や丸岡城等を周遊する傾向が比較的強く、歴史と精神性などに対する感度が高いものと推測されるため、それ

に合わせたプロモーション手法やルート設定が有効と考えられる。

また、今回の調査では自動車での訪問が圧倒的な割合を占めたものの、これは現状の交通網を前提とした結果であり、潜在的なニーズを捉えきれていない恐れがあることに留意する必要がある。つまり、本県を訪れたいという願望があったとしても、交通利便性の低さが障害となって来訪が実現していないという可能性と、県内延伸後の高速交通体系の変化によって、来訪者の移動手段もまた大きく変化する可能性がある。北陸新幹線県内延伸に向け、二次交通の充実を様々な観点から進めていく必要がある。

～おわりに～

本稿は最終報告であるが、紙面の都合で詳細なデータ等は記載していない。それらについては、今回の調査結果をすべて網羅した研究論文として、別途とりまとめる予定である。

筆者紹介

公立大学法人福井県立大学
地域経済研究所 講師

えがわ せいichi
江川 誠一氏



1967年福井県坂井市生まれ。京都大学卒。シンクタンクやコンサルタント会社勤務を経て、2010年より現職。高速交通体系とまちづくりのほか、観光振興、地域振興、政策評価・事業効果、協働のまちづくり、防災まちづくり等が専門。あわら市、敦賀市、鯖江市で、北陸新幹線の延伸を見据えたまちづくりに関する委員を務めているほか、福井テレビ「タイムリーふくい」でコメンテーターとしても活躍中。

＼今からでも遅くない！／

“血管若返り生活術”

保健師 表 仁美

日本人の死因トップであり、がんと肩を並べるくらい多いのが“血管病”です。「人は血管とともに老化する」と言われ、血管の老化は動脈硬化の進行を早め、脳卒中や心筋梗塞といった“血管病”を招きます。かつては高齢者に多い病気でしたが、近年は40歳代～50歳代の働き盛りの世代に増えています。不規則な生活や睡眠不足、喫煙、過食、高脂肪食、運動不足、そしてストレス…これらすべてが血管の老化を早めます。血管老化度をチェックして、生活習慣を見直し、血管から健康になりましょう。

血管の老化度CHECK

- ☐ いつもおなかいっぱい食べる
- ☐ 早食いだ
- ☐ 肉や揚げ物が好きでよく食べる
- ☐ 漬物や佃煮が好きでよく食べる
- ☐ 何にでも醤油、ソース、マヨネーズなどの調味料をかける
- ☐ 外食したり、市販の弁当を食べることが多い
- ☐ 麺類の汁は残さず飲み干す
- ☐ ほぼ毎日晚酌をする
- ☐ 運動はほとんどしない
- ☐ 歩く時間がほとんどない
- ☐ 20歳のころに比べて5kg以上太った
- ☐ 仕事が忙しくて休みが取れない
- ☐ 慢性的に睡眠不足だ
- ☐ いつもストレスを感じている
- ☐ イライラしている
- ☐ 喫煙している

5個以上当てはまる人は、血管の老化が進んでいる可能性大!

血管の老化が招く主な病気



致死率が高い病気や、障害が残る病気を引き起こします



>> 健康診断結果の数値でチェック!

血圧値140/90mmHg以上、空腹時血糖値126mg/dl以上、LDLコレステロール140mg/dl以上のどれかに当てはまる人は、血管の老化が進んでいる可能性が特に高いため注意が必要です。

血管を若返らせる生活術

毎日の食生活で♪

- ・減塩の工夫をし、血管を傷めないように
- ・野菜や果物を意識して食べる
- ・タンパク質は魚と大豆を中心に

ストレスをためない♪

- ・自分なりのストレス解消法を見つける
- ・自分が心地よいもの、集中できるものでリラックス

運動習慣をつけよう♪

- ・体を動かして血流アップ!



福井銀行景気動向調査 調査結果

(平成28年1～3月 当期(実績))
(平成28年4～6月 次期(見通し))

株式会社 福井銀行 経営企画グループ
情報支援チーム

【調査の目的】

福井県内企業のみなさまにアンケート調査を行うことで、景気動向(県内企業の現在の経営環境や今後の見通し)について情報提供いただき、共有することで、今後のみなさまの経営に少しでも役立てていただくことを目的としております。

【調査概要】

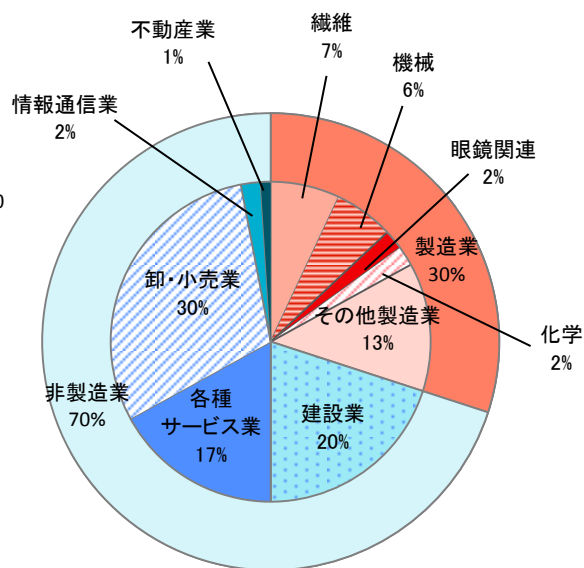
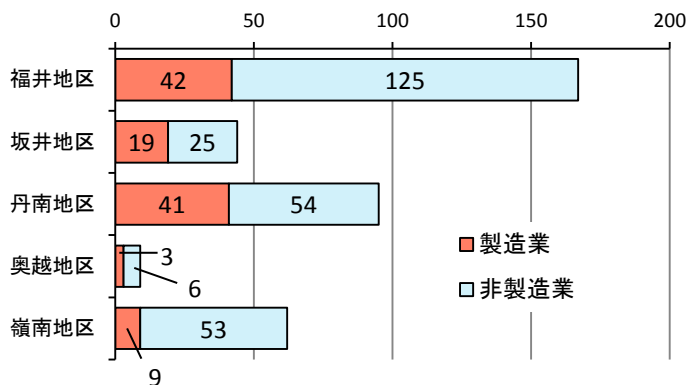
- ・調査対象企業 福井県内の企業 1,160社
- ・回答企業 377社(回答率 32.5%)
- ・調査時期 平成28年3月初旬

【DI調査について】

このアンケート調査では、DI(Diffusion Index)による分析を行っております。DIは、「好転」と回答した企業の割合と「悪化」と回答した企業の割合との差を求めたものです。景気が良い場合はプラス幅が大きくなり、景気が悪化している場合はマイナス幅が大きくなります。

※ 原材料価格、在庫状況については、「上昇」と回答した企業の割合から「低下」と回答した企業の割合との差を求めており、上記の判断とは逆の傾向を示します。

【回答企業の概要】



【総評】

足元の景況感は、中国の景気減速や暖冬による季節商品の消費低迷等によって、前期から大幅な低下をしており、総じてマイナスとなっています。

業種別では、製造業、非製造業ともに下向きとなっています。特に機械において景気先行きの不透明感から設備投資を控える動きがあり、大きくマイナスとなっています。

地域別では、丹南地区・奥越地区・嶺南地区で大きくマイナスとなり、総じて下向きとなっています。

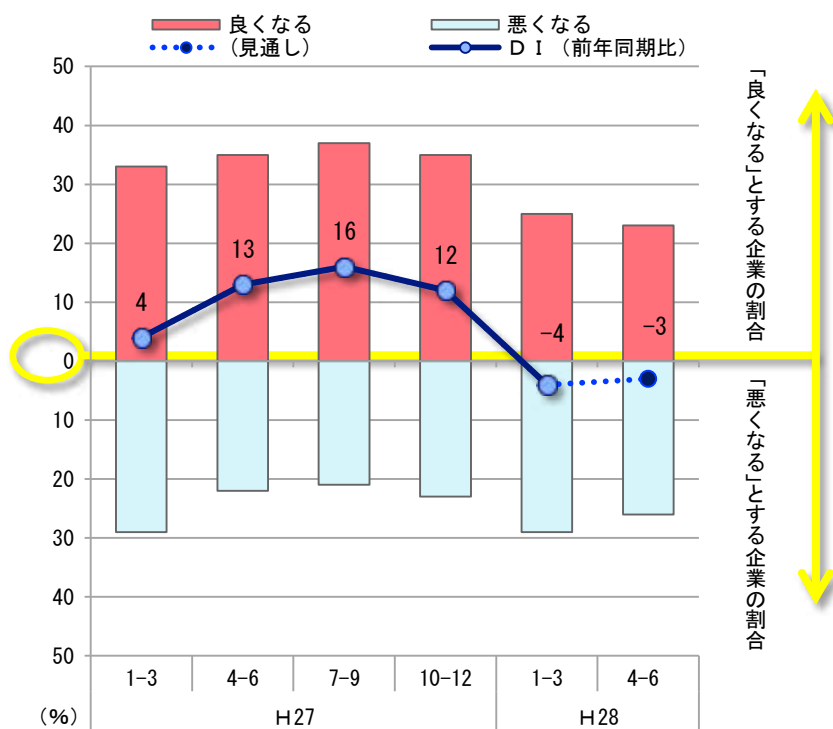
先行きについては、わずかに上昇の見通しになっていますが、厳しい状況が予想されています。特に繊維では、中国の景気減速等を要因として大きくマイナスの見通しとなっています。建設、不動産、卸・小売では、北陸新幹線延伸等の工事や住宅など消費税増税率引き上げ前の駆け込み需要、マイナス金利政策によるローン金利低下の期待から、上昇の見通しとなっています。

※ 本調査の調査結果をまとめるにあたっては、福井県立大学地域経済研究所 江川誠一講師にご協力いただきました。

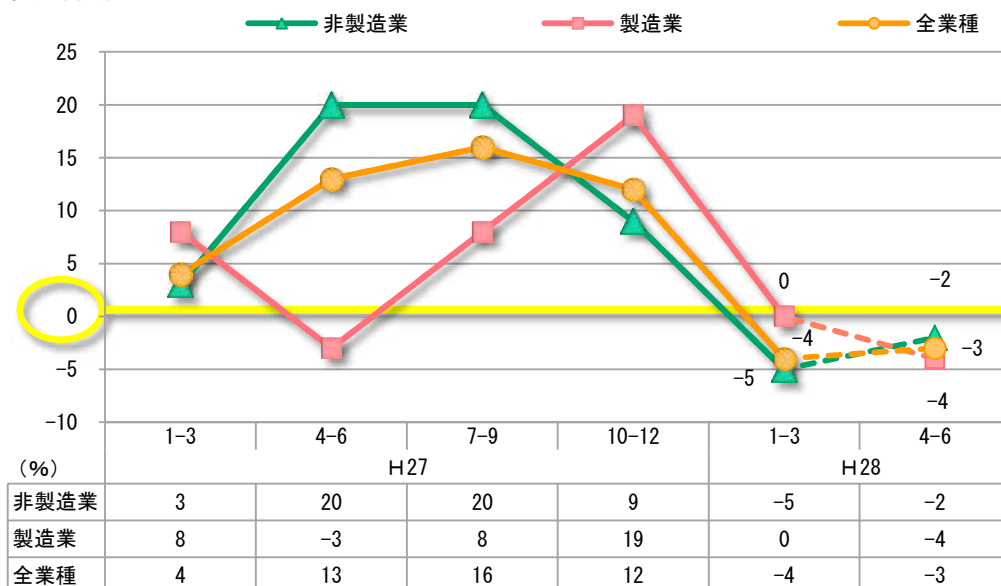
業況①

- 業況DIは、前期より大幅な低下となり、マイナスに転じている。先行きはほぼ横ばいの予想となり、マイナスの水準で厳しい見通しとなっている。
- 業種別にみると、製造業は前期から大幅な低下となっている。非製造業でも大幅な低下となっており、マイナスに転じている。
- 先行きは、製造業では、低下が予想され、マイナスに転じる見通し。非製造業では、やや上昇が予想されるものの、マイナスの水準で厳しい見通し。

●自社の業況判断DIの推移

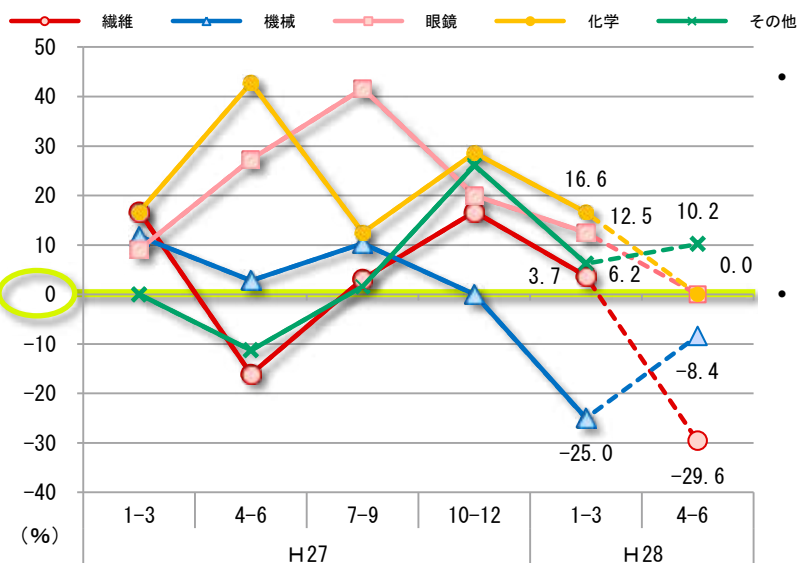


●業況判断DI



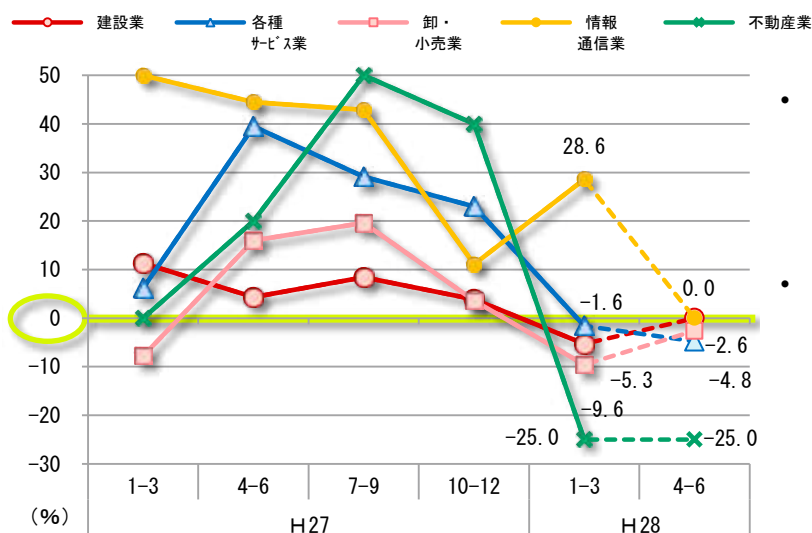
業況②

●業種別業況判断DI(製造業)



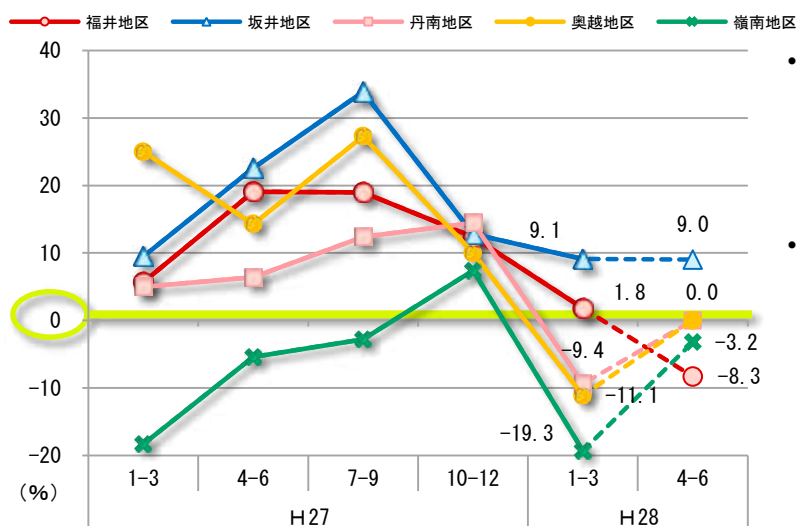
- 製造業では、眼鏡関連、化学は大幅に低下しているものの、高い水準を続けている。繊維、その他製造業は大幅に低下しているものの、プラスの水準。機械は大幅に低下しマイナスに転じている。
- 先行きは、その他製造業ではやや上昇しプラスの水準を維持する予想。繊維は大幅な低下を予想し、マイナスに転じる見通し。機械は大幅な上昇が予想されるもののマイナスの水準。眼鏡、化学は大幅な低下が予想され、全体に厳しい見通しとなっている。

●業種別業況判断DI(非製造業)



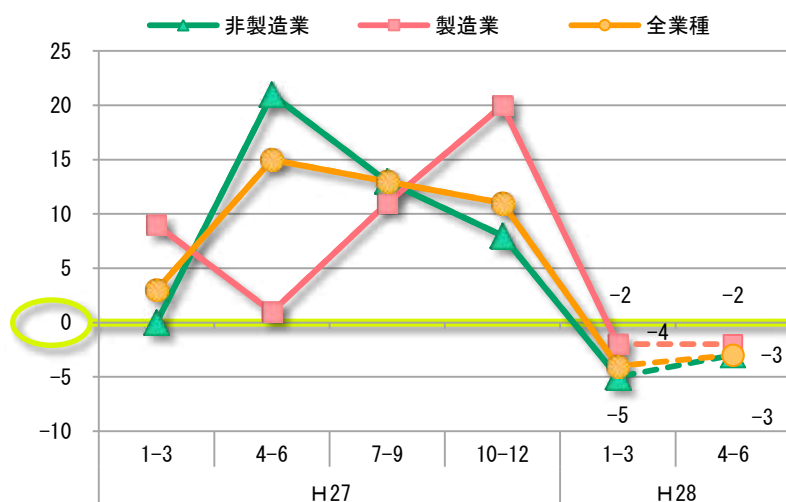
- 非製造業では、建設業、各種サービス業、卸・小売業は大幅に低下しマイナスに転じている。情報通信業は上昇し高い水準を続けている。
- 先行きは、建設業、卸・小売業は上昇を予想。各種サービス業は低下を予想。情報通信業は大幅な低下の見通し。建設業を除いて、マイナスの水準が予想され、全体に厳しい見通しとなっている。

●地域別業況判断DI



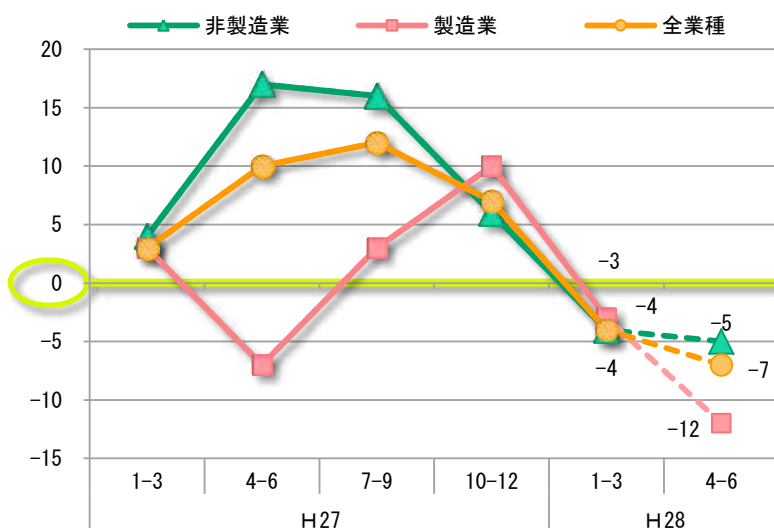
- 地域別では、福井地区、坂井地区は低下しているもののプラスの水準を維持している。丹南地区、奥越地区、嶺南地区は大幅に低下しマイナスに転じている。
- 先行きは、福井地区は低下を予想し、マイナスに転じている。坂井地区は横ばいでプラスの水準を維持する見通し。丹南地区、奥越地区、嶺南地区はともに上昇の見通し。

売上(工事)高



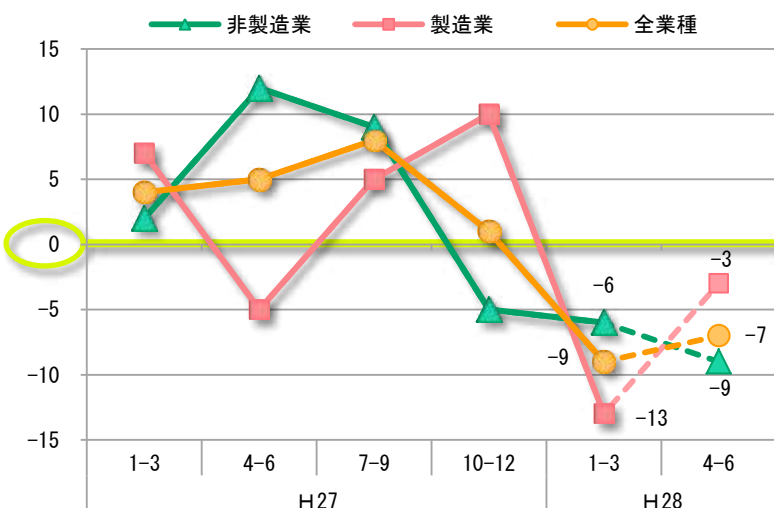
- 売上(工事)高DIは、前期より大幅な低下となっており、マイナスに転じている。
- 業種別にみると、製造業、非製造業ともに大幅な低下となっており、マイナスに転じている。
- 先行きは、総じてマイナスの厳しい見通しとなっている。製造業は横ばいの見通し。非製造業はわずかに上昇が予想されるもののマイナスの見通し。

収益状況



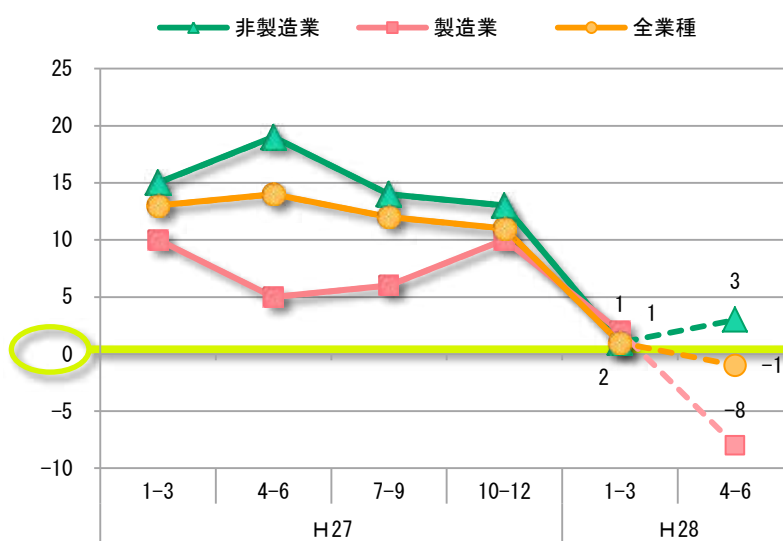
- 収益状況DIは、前期より大幅な低下となっており、マイナスに転じている。
- 業種別にみると、製造業、非製造業ともに大幅な低下となっており、マイナスに転じている。
- 先行きは、総じてマイナスの厳しい見通しになっている。製造業は、さらに低下を予想。非製造業はほぼ横ばいの予想。

受注残高



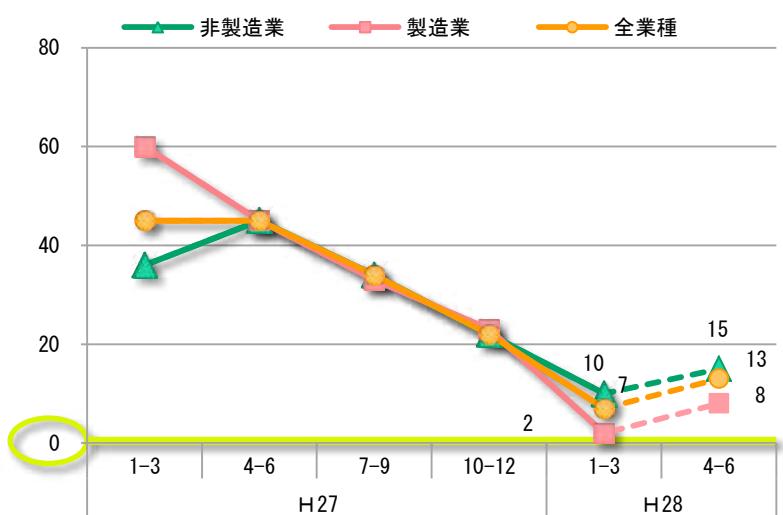
- 受注残高DIは、前期より大幅な低下となっている。
- 業種別にみると、製造業、非製造業ともに大幅な低下となっており、マイナスに転じる。
- 先行きは、大幅な上昇が予想されるも、マイナスの水準。非製造業はさらに低下し、マイナスの厳しい見通し。

製(商)品販売価格



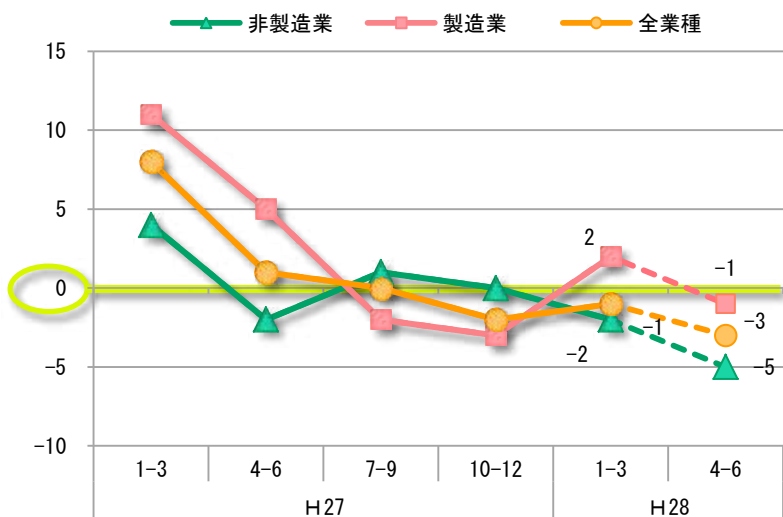
- ・ 製(商)品販売価格DIは、大幅な低下となっているものの、プラスの水準を維持している。
- ・ 業種別にみると、製造業、非製造業ともに、大幅な低下となっている。
- ・ 先行きは、さらに低下してマイナスに転じる見通し。製造業はさらに低下し、マイナスに転じる見通し。非製造業はほぼ横ばいでプラスの水準を維持している。

原材料(仕入・資材)価格



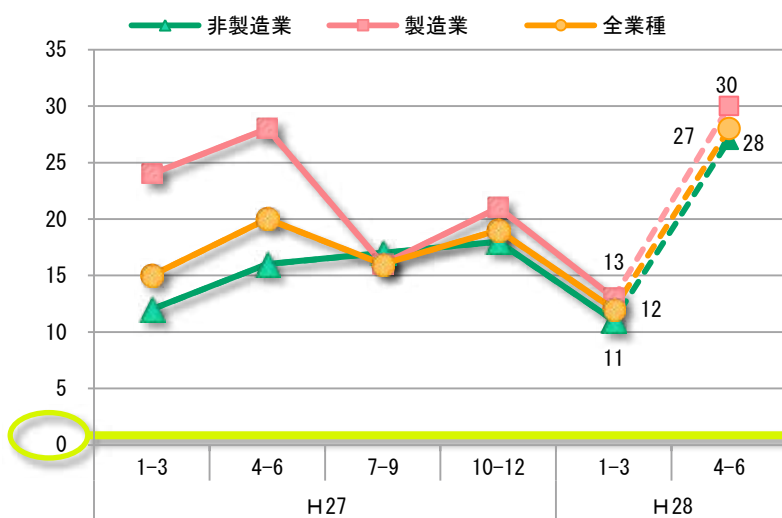
- ・ 原材料(仕入・資材)価格DIは、大幅な低下となっている。
- ・ 業種別にみると、製造業、非製造業ともに大幅な低下となっている。
- ・ 先行きは、製造業、非製造業ともに上昇の見通し。

在庫



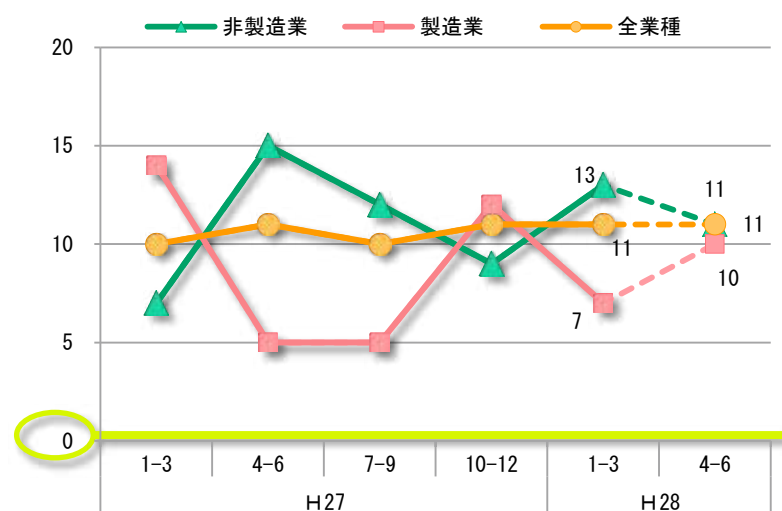
- ・ 在庫DIは、ほぼ横ばいでマイナスの水準となっている。
- ・ 業種別にみると、製造業は上昇してプラスに転じている。非製造業は低下し、マイナスに転じている。
- ・ 先行きは、製造業、非製造業ともに低下の見通し。

雇用者数



- 雇用者数DIは、低下しているものの高い水準を続けている。
- 業種別にみると、製造業、非製造業ともに低下している。
- 先行きは、製造業、非製造業ともに大幅な上昇が予想され、高い水準になる見通し。

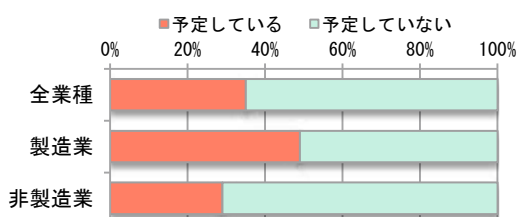
資金繰り



- 資金繰りDIは、横ばいとなっている。
- 業種別にみると、製造業では低下しているもののプラスの水準を維持している。非製造業は上昇している。
- 先行きは、横ばいの見通し。製造業は上昇、非製造業は低下の予想で、ともにプラスの水準を維持している。

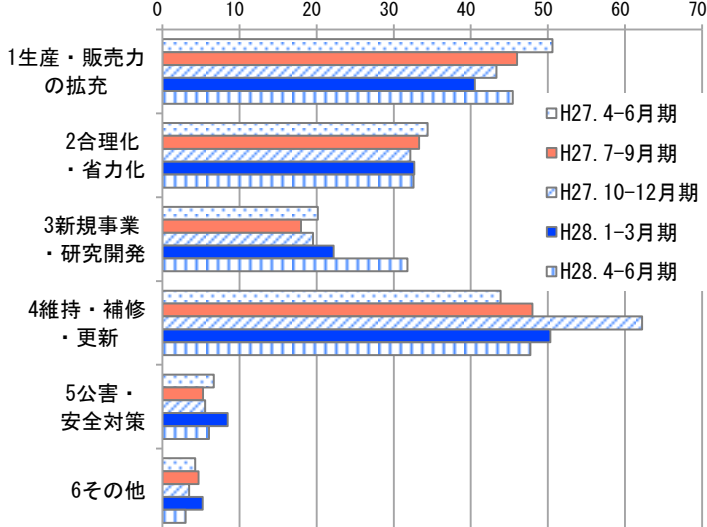
設備投資の有無

●設備投資の有無

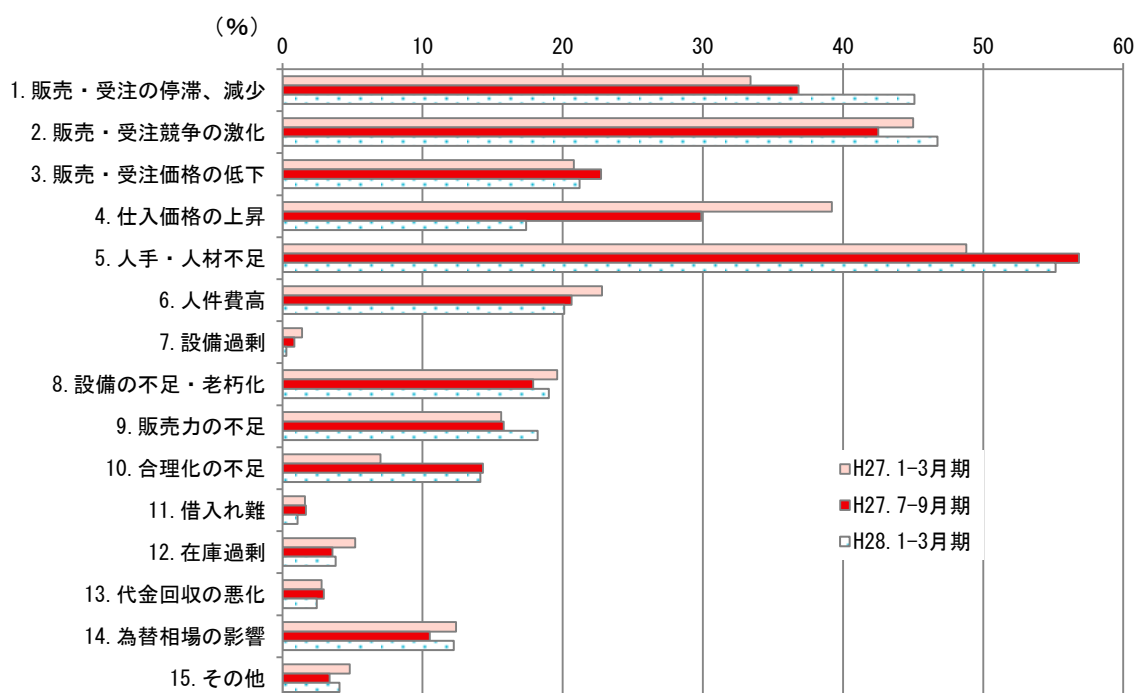


- 設備投資を予定している企業の主な目的は、「維持・補修・更新」が最も多く、「生産・販売力の拡充」「合理化・省力化」「新規事業・研究開発」と続く。

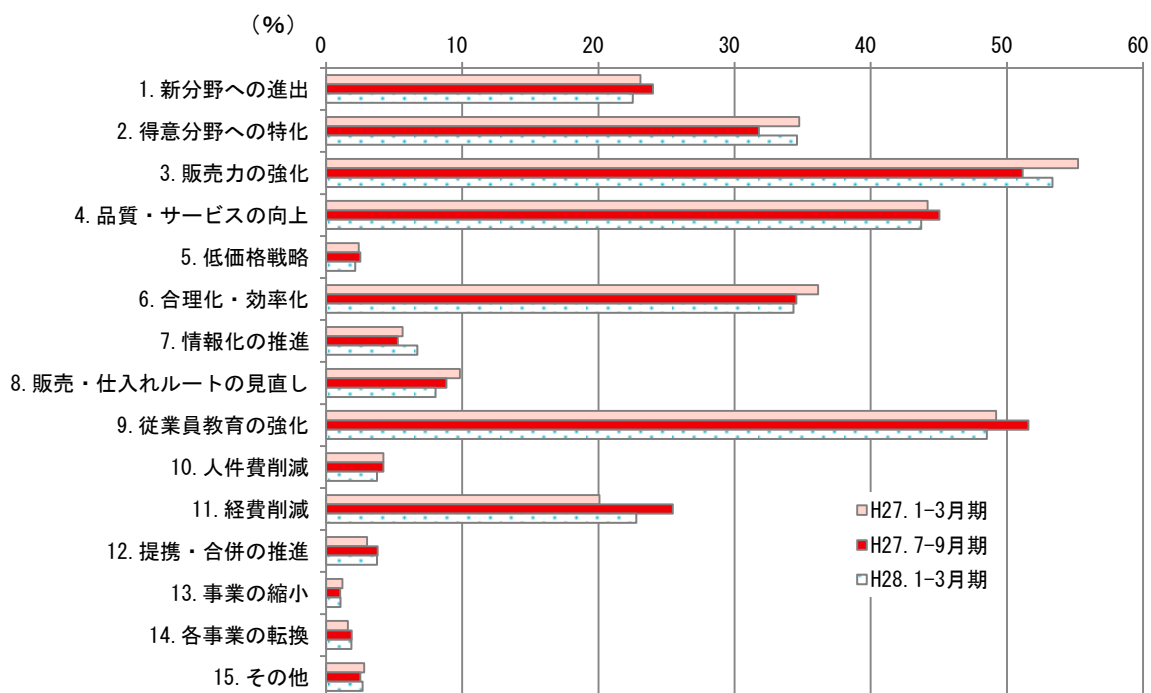
●設備投資の目的(複数回答)



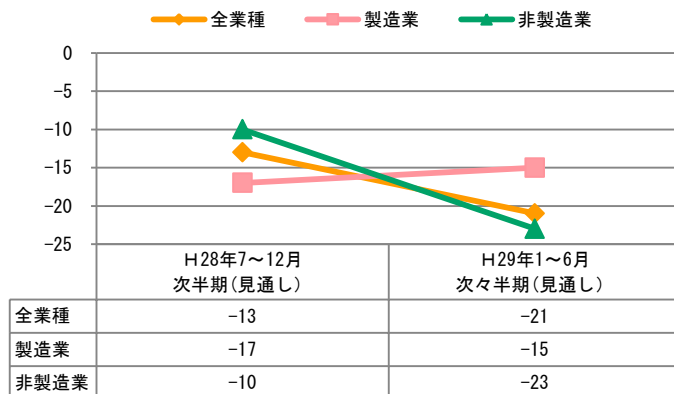
経営上の問題点(複数回答)



今後の経営方針(複数回答)



所属業界の中長期的な景気動向



- 所属業界の中長期的な景気動向は、H28年 7～12月で大幅なマイナスとなっており、H29年1～6月ではそのマイナス幅を広げるとみられる。
- 業種別にみると、製造業はわずかに上昇を予想するがマイナスの水準。非製造業はさらに低下の予想で、より厳しい見通しとなっている。

業種別分類集計①

(単位: %)

四半期別	平成27年10-12月期				平成28年1-3月期					平成28年4-6月期					
	前期実績				当期実績					来期見通し					
	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.	前回 調査時 今期 見通し	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.		
項目	①	②	③	①-③	①	②	③	前期比	①-③		①	②	③	今期比	①-③
業況	34.8	42.5	22.7	12.1	24.4	47.2	28.4	前期比	▲4.0	▲1.6	22.8	51.2	26.0	▲3.2	
製造業	37.9	42.9	19.3	18.6	23.7	52.6	23.7	↓	0.0	2.8	21.1	53.5	25.4	↓	▲4.3
繊維	36.7	43.3	20.0	16.7	33.3	37.0	29.6	↓	3.7	▲6.7	11.1	48.1	40.7	↓	▲29.6
機械	28.6	42.9	28.6	0.0	4.2	66.7	29.2	↓	▲25.0	▲3.6	20.8	50.0	29.2	↓	▲8.4
眼鏡	20	80	0.0	20.0	12.5	87.5	0.0	↓	12.5	40.0	0.0	100.0	0.0	↓	0.0
化学	42.9	42.9	14.3	28.6	33.3	50.0	16.7	↓	16.6	14.3	16.7	66.7	16.7	↓	0.0
その他	44.6	36.9	18.5	26.1	28.6	49.0	22.4	↓	6.2	3.1	30.6	49.0	20.4	↑	10.2
非製造業	33.4	42.3	24.3	9.1	24.7	44.9	30.4	↓	▲5.7	▲3.6	23.6	50.2	26.2	↑	▲2.6
建設業	25.0	53.9	21.1	3.9	22.7	49.3	28.0	↓	▲5.3	▲10.7	24.0	52.0	24.0	↑	0.0
各種サービス業	47.3	28.4	24.3	23.0	32.3	33.9	33.9	↓	▲1.6	10.8	19.4	56.5	24.2	↓	▲4.8
卸・小売業	29.8	44.0	26.2	3.6	21.7	47.0	31.3	↓	▲9.6	▲10.7	26.1	45.2	28.7	↑	▲2.6
情報通信業	33.3	44.4	22.2	11.1	28.6	71.4	0.0	↑	28.6	22.2	28.6	42.9	28.6	↓	0.0
不動産業	60.0	20.0	20.0	40.0	25.0	25.0	50.0	↓	▲25.0	40.0	0.0	75.0	25.0	→	▲25.0
売上(工事)高	37.4	36.3	26.4	11.0	27.1	41.8	31.1	↓	▲4.0	▲4.5	25.0	47.3	27.7	↑	▲2.7
製造業	43.6	32.1	24.3	19.3	24.6	48.2	27.2	↓	▲2.6	1.4	21.9	54.4	23.7	↑	▲1.8
繊維	43.3	30.0	26.7	16.6	25.9	40.7	33.3	↓	▲7.4	▲6.9	11.1	63.0	25.9	↓	▲14.8
機械	32.1	28.6	39.3	▲7.2	12.5	58.3	29.2	↓	▲16.7	▲7.1	20.8	41.7	37.5	→	▲16.7
眼鏡	30.0	60.0	10.0	20.0	37.5	62.5	0.0	↑	37.5	40.0	0.0	87.5	12.5	↓	▲12.5
化学	71.4	14.3	14.3	57.1	33.3	50.0	16.7	↓	16.6	42.9	16.7	66.7	16.7	↓	0.0
その他	47.7	32.3	20.0	27.7	26.5	44.9	28.6	↓	▲2.1	▲1.6	32.7	49.0	18.4	↑	14.3
非製造業	34.5	38.2	27.3	7.2	28.2	38.9	32.8	↓	▲4.6	▲7.2	26.3	44.3	29.4	↑	▲3.1
建設業	27.6	48.7	23.7	3.9	25.3	44.0	30.7	↓	▲5.4	▲11.8	24.0	38.7	37.3	↓	▲13.3
各種サービス業	45.9	27.0	27.0	18.9	37.1	29.0	33.9	↓	3.2	2.7	29.0	46.8	24.2	↑	4.8
卸・小売業	31.2	38.3	30.5	0.7	25.4	40.4	34.2	↓	▲8.8	▲12.8	27.2	44.7	28.1	↑	▲0.9
情報通信業	25.0	62.5	12.5	12.5	28.6	57.1	14.3	↑	14.3	37.5	28.6	57.1	14.3	→	14.3
不動産業	80.0	0.0	20.0	60.0	25.0	25.0	50.0	↓	▲25.0	0.0	0.0	75.0	25.0	→	▲25.0
収益	31.2	45.2	23.6	7.6	23.6	48.8	27.6	↓	▲4.0	▲4.9	22.9	47.3	29.8	↓	▲6.9
製造業	29.3	51.4	19.3	10.0	22.8	50.9	26.3	↓	▲3.5	▲3.5	20.2	48.2	31.6	↓	▲11.4
繊維	33.3	43.3	23.3	10.0	25.9	48.1	25.9	↓	0.0	▲13.3	11.1	51.9	37.0	↓	▲25.9
機械	25.0	50.0	25.0	0.0	4.2	66.7	29.2	↓	▲25.0	0.0	25.0	37.5	37.5	↑	▲12.5
眼鏡	10.0	60.0	30.0	▲20.0	0.0	50.0	50.0	↓	▲50.0	0.0	0.0	62.5	37.5	↑	▲37.5
化学	28.6	57.1	14.3	14.3	33.3	50.0	16.7	↑	16.6	42.9	16.7	50.0	33.3	↓	▲16.6
その他	32.3	53.8	13.8	18.5	32.7	44.9	22.4	↓	10.3	▲6.2	26.5	49.0	24.5	↓	2.0
非製造業	32.1	42.3	25.6	6.5	24.0	47.9	28.1	↓	▲4.1	▲5.6	24.0	46.9	29.0	↓	▲5.0
建設業	27.6	48.7	23.7	3.9	20.0	54.7	25.3	↓	▲5.3	▲14.7	23.0	41.9	35.1	↓	▲12.1
各種サービス業	52.7	21.6	25.7	27.0	33.9	35.5	30.6	↓	3.3	1.3	22.6	53.2	24.2	↓	▲1.6
卸・小売業	25.5	47.5	27.0	▲1.5	20.9	49.6	29.6	↓	▲8.7	▲7.1	25.2	47.0	27.8	↑	▲2.6
情報通信業	11.1	66.7	22.2	▲11.1	14.3	71.4	14.3	↑	0.0	22.2	28.6	42.9	28.6	→	0.0
不動産業	20.0	60.0	20.0	0.0	50.0	25.0	25.0	↑	25.0	20.0	25.0	50.0	25.0	↓	0.0
受注残高	29.1	43.0	27.8	1.3	21.1	48.7	30.2	↓	▲9.1	▲7.1	24.5	44.0	31.5	↑	▲7.0
製造業	31.9	46.2	21.8	10.1	19.8	46.9	33.3	↓	▲13.5	▲5.9	22.9	51.0	26.0	↑	▲3.1
繊維	26.9	53.8	19.2	7.7	18.2	45.5	36.4	↓	▲18.2	3.8	9.1	50.0	40.9	↓	▲31.8
機械	36.0	28.0	36.0	0.0	5.0	55.0	40.0	↓	▲35.0	▲24.0	20.0	40.0	40.0	↑	▲20.0
眼鏡	55.6	44.4	0.0	55.6	37.5	62.5	0.0	↓	37.5	33.3	0.0	100.0	0.0	↓	0.0
化学	60.0	40.0	0.0	60.0	33.3	50.0	16.7	↓	16.6	20.0	16.7	66.7	16.7	↓	0.0
その他	25.9	51.9	22.2	3.7	22.5	40.0	37.5	↓	▲15.0	▲11.1	37.5	45.0	17.5	↑	20.0
非製造業	27.4	41.1	31.6	▲4.2	21.8	49.7	28.5	↓	▲6.7	▲7.9	25.4	40.1	34.5	↓	▲9.1
建設業	23.9	38.0	38.0	▲14.1	19.4	48.6	31.9	↑	▲12.5	▲11.3	21.1	38.0	40.8	↓	▲19.7
各種サービス業	35.3	41.2	23.5	11.8	22.6	54.8	22.6	↓	0.0	▲5.9	22.6	51.6	25.8	↓	▲3.2
卸・小売業	25.3	43.0	31.6	▲6.3	24.3	45.7	30.0	↑	▲5.7	▲9.0	29.0	36.2	34.8	↓	▲5.8
情報通信業	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	↓	0.0	33.3	75.0	25.0	0.0	↑	75.0
不動産業	-	-	-	-	50.0	50.0	0.0	↓	50.0	-	0.0	100.0	0.0	↓	0.0

業種別分類集計②

(単位: %)

四半期別		平成27年10-12月期				平成28年1-3月期						平成28年4-6月期				
		前期実績				当期実績						来期見通し				
項目	状況	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易 ①	不変 ②	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難 ③	D.I. ①-③	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易 ①	不変 ②	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難 ③	D.I. ①-③	前回 調査時 今期 見通し	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易 ①	不変 ②	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難 ③	D.I. ①-③		
	①	②	③	①-③	①	②	③	前期比 ①-③	①-③	①	②	③	今期比 ①-③			
製(商)品販売価格		23.3	64.8	11.9	11.4	15.1	70.9	14.0	↓	1.1	3.7	13.1	73.3	13.7	▲ 0.6	
製造業	製造業	17.3	75.5	7.2	10.1	14.2	74.3	11.5	↓	2.7	0.0	9.7	72.6	17.7	▲ 8.0	
	繊維	20.0	70.0	10.0	10.0	11.1	66.7	22.2	↓	▲ 11.1	▲ 3.3	7.4	66.7	25.9	↓	▲ 18.5
	機械	11.1	81.5	7.4	3.7	4.3	73.9	21.7	↓	▲ 17.4	▲ 3.7	0.0	78.3	21.7	↓	▲ 21.7
	眼鏡	20.0	80.0	0.0	20.0	12.5	87.5	0.0	↓	12.5	0.0	0.0	75.0	25.0	↓	▲ 25.0
	化学	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	66.7	33.3	↓	▲ 33.3	▲ 14.3	0.0	66.7	33.3	→	▲ 33.3
	その他	18.5	75.4	6.2	12.3	22.4	77.6	0.0	↑	22.4	4.6	18.4	73.5	8.2	↓	10.2
	非製造業	26.5	59.1	14.4	12.1	15.6	69.3	15.2	↓	0.4	5.6	14.7	73.6	11.7	↑	3.0
	建設業	28.1	64.9	7.0	21.1	5.4	85.7	8.9	↓	▲ 3.5	5.2	10.7	82.1	7.1	↑	3.6
	各種サービス業	27.9	54.1	18.0	9.9	11.5	75.0	13.5	↓	▲ 2.0	1.6	13.5	78.8	7.7	↑	5.8
	卸・小売業	27.2	55.9	16.9	10.3	23.7	56.1	20.2	↓	3.5	8.8	18.4	65.8	15.8	↓	2.6
原材料(仕入・資材)価格	卸・小売業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0	▲ 14.3	0.0	83.3	16.7	↓	▲ 16.7
	情報通信業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0
	不動産業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0
	製造業	35.2	51.5	13.2	22.0	23.4	60.6	16.0	↓	7.4	19.7	22.1	68.8	9.1	↑	13.0
	繊維	36.0	51.1	12.9	23.1	15.9	69.9	14.2	↓	1.7	19.5	17.9	72.3	9.8	↑	8.1
	機械	50.0	40.0	10.0	40.0	22.2	66.7	11.1	↓	11.1	23.4	25.9	66.7	7.4	↓	18.5
	眼鏡	25.9	63.0	11.1	14.8	4.3	87.0	8.7	↓	▲ 4.4	22.2	0.0	91.3	8.7	↓	▲ 8.7
	化学	40.0	60.0	0.0	40.0	12.5	87.5	0.0	↓	12.5	20.0	12.5	87.5	0.0	→	12.5
	その他	0.0	85.7	14.3	▲ 14.3	0.0	83.3	16.7	↓	▲ 16.7	0.0	0.0	100.0	0.0	↑	0.0
	非製造業	34.9	51.8	13.4	21.5	26.8	56.4	16.8	↓	10.0	19.8	24.0	67.2	8.8	↑	15.2
在庫	建設業	31.1	63.5	5.4	25.7	27.8	61.1	11.1	↓	16.7	18.9	22.2	72.2	5.6	↓	16.6
	各種サービス業	32.3	43.1	24.6	7.7	20.0	47.3	32.7	↓	▲ 12.7	13.9	27.3	61.8	10.9	↑	16.4
	卸・小売業	40.1	46.7	13.1	27.0	31.3	54.8	13.9	↓	17.4	24.3	24.3	65.2	10.4	↓	13.9
	情報通信業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0	0.0	16.7	83.3	0.0	↑	16.7
	不動産業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	→	0.0
	製造業	16.3	66.1	17.6	▲ 1.3	15.5	68.0	16.5	↑	▲ 1.0	▲ 3.6	10.9	74.9	14.2	↓	▲ 3.3
	繊維	15.0	66.9	18.0	▲ 3.0	16.8	68.2	15.0	↑	1.8	▲ 1.5	12.1	74.8	13.1	↓	▲ 1.0
	機械	20.0	56.7	23.3	▲ 3.3	37.0	55.6	7.4	↑	29.6	▲ 3.4	29.6	66.7	3.7	↓	25.9
	眼鏡	14.8	74.1	11.1	3.7	10.5	68.4	21.1	↓	▲ 10.6	3.7	5.3	68.4	26.3	↑	▲ 21.0
	化学	0.0	66.7	33.3	▲ 33.3	25.0	62.5	12.5	↑	12.5	0.0	12.5	87.5	0.0	→	12.5
雇用者	その他	16.7	83.3	0.0	16.7	0.0	66.7	33.3	↓	▲ 33.3	▲ 16.7	0.0	83.3	16.7	↑	▲ 16.7
	非製造業	14.8	67.2	18.0	▲ 3.2	8.5	76.6	14.9	↓	▲ 6.4	▲ 1.7	6.4	78.7	14.9	↓	▲ 8.5
	建設業	17.0	65.7	17.4	▲ 0.4	14.8	67.9	17.3	↓	▲ 2.5	▲ 4.8	10.2	75.0	14.8	↓	▲ 4.6
	各種サービス業	2.0	73.5	24.5	▲ 22.5	9.3	72.1	18.6	↑	▲ 9.3	▲ 14.3	11.6	72.1	16.3	↑	▲ 4.7
	卸・小売業	25.6	64.1	10.3	15.3	15.8	73.7	10.5	↓	5.3	12.8	7.9	84.2	7.9	↓	0.0
	情報通信業	20.7	61.5	17.8	2.9	15.7	63.9	20.4	↓	▲ 4.7	▲ 7.4	10.2	72.2	17.6	↓	▲ 7.4
	不動産業	0.0	100.0	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	↑	40.0	20.0	20.0	80.0	0.0	↓	20.0
	製造業	33.8	51.6	14.6	19.2	28.9	54.0	17.1	↓	11.8	10.4	35.6	56.7	7.8	↑	27.8
	繊維	37.1	46.4	16.4	20.7	30.7	50.9	18.4	↓	12.3	6.4	37.7	54.4	7.9	↑	29.8
	機械	33.3	53.3	13.3	20.0	25.9	44.4	29.6	↓	▲ 3.7	0.0	37.0	59.3	3.7	↑	33.3
	眼鏡	39.3	46.4	14.3	25.0	50.0	37.5	12.5	↑	37.5	32.2	45.8	45.8	8.3	→	37.5
資金繰り	化学	50.0	50.0	0.0	50.0	25.0	75.0	0.0	↓	25.0	10.0	12.5	87.5	0.0	↓	12.5
	その他	57.1	42.9	0.0	57.1	50.0	50.0	0.0	↓	50.0	28.6	66.7	16.7	16.7	→	50.0
	非製造業	33.8	43.1	23.1	10.7	22.4	57.1	20.4	↓	2.0	▲ 4.6	34.7	55.1	10.2	↑	24.5
	建設業	32.2	53.9	13.8	18.4	28.1	55.4	16.5	↓	11.6	12.1	34.6	57.7	7.7	↑	26.9
	各種サービス業	39.5	43.4	17.1	22.4	30.6	45.8	23.6	↓	7.0	19.8	27.8	62.5	9.7	↑	18.1
	卸・小売業	32.4	50.0	17.6	14.8	30.6	50.0	19.4	↓	11.2	13.5	38.7	50.0	11.3	↑	27.4
	情報通信業	27.0	63.1	9.9	17.1	22.6	65.2	12.2	↓	10.4	4.3	33.9	60.9	5.2	↑	28.7
	不動産業	62.5	25.0	12.5	50.0	42.9	57.1	0.0	↓	42.9	25.0	57.1	42.9	0.0	↑	57.1
	製造業	20.0	60.0	20.0	0.0	75.0	25.0	0.0	↑	75.0	80.0	75.0	25.0	0.0	→	75.0
	繊維	17.8	74.8	7.4	10.4	16.9	77.4	5.6	↑	11.3	3.6	16.9	76.9	6.2	↓	10.7
	機械	16.4	79.3	4.3	12.1	14.9	77.2	7.9	↓	7.0	8.6	14.0	82.5	3.5	↑	10.5
資金繰り	眼鏡	26.7	70.0	3.3	23.4	18.5	74.1	7.4	↓	11.1	16.7	14.8	81.5	3.7	→	11.1
	化学	14.3	78.6	7.1	7.2	8.3	83.3	8.3	↓	0.0	7.2	8.3	91.7	0.0	↑	8.3
	その他	10.0	80.0	10.0	0.0	12.5	87.5	0.0	↑	12.5	0.0	0.0	100.0	0.0	↓	0.0
	非製造業	14.3	85.7	0.0	14.3	16.7	83.3	0.0	↑	16.7	14.3	16.7	83.3	0.0	→	16.7
	建設業	13.8	83.1	3.1	10.7	16.3	73.5	10.2	↓	6.1	6.1	18.4	75.5	6.1	↑	12.3
	各種サービス業	18.4	72.7	8.9	9.5	17.8	77.5	4.7	↑	13.1	1.3	18.2	74.4	7.4	↓	10.8
	卸・小売業	19.7	72.4	7.9	11.8	13.9	83.3	2.8	↓	11.1	6.6	15.3	75.0	9.7	↓	5.6
	情報通信業	21.6	67.6	10.8	10.8	22.6	69.4	8.1	↑	14.5	▲ 2.7	21.0	67.7	11.3	↓	9.7
	不動産業	15.7	75.0	9.3	6.4	19.3	76.3	4.4	↑	14.9	▲ 0.7	19.3	76.3	4.4	→	14.9
	製造業	22.2	77.8	0.0	22.2	0.0	100.0	0.0	↓	0.0	11.1	0.0	100.0	0.0	→	0.0
	繊維	20.0	80.0	0.0	20.0	0.0	100.0	0.0	↓	0.0	20.0	25.0	75.0	0.0	↑	25.0

業種別分類集計③

(単位: %)

状況	平成28年7-12月期					平成29年1-6月期				
	次半期見通し					次々半期見通し				
	良くなる	不変	悪くなる	D.I.	前回調査時見通し	良くなる	不変	悪くなる	比	D.I.
項目	①	②	③	①-③		①	②	③		①-③
景気動向	17.2	53.1	29.8	-12.6	-16.2	15.4	48.1	36.5	↓	-21.1
製造業	14.0	55.3	30.7	-16.7	-11.5	15.0	54.9	30.1	↓	-15.1
繊維	11.1	51.9	37.0	-25.9	-22.6	18.5	51.9	29.6	↑	-11.1
機械	16.7	50.0	33.3	-16.6	-14.3	8.3	54.2	37.5	↓	-29.2
眼鏡	12.5	87.5	0.0	12.5	0.0	12.5	75.0	12.5	↓	0.0
化学	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	20.0	40.0	40.0	↓	-20.0
その他	12.2	57.1	30.6	-18.4	-8.3	16.3	55.1	28.6	↑	-12.3
非製造業	18.5	52.1	29.3	-10.8	-18.2	15.6	45.1	39.3	↓	-23.7
建設業	20.8	51.4	27.8	-7.0	-20.2	11.1	44.4	44.4	↓	-33.3
各種サービス業	16.1	51.6	32.3	-16.2	-14.1	14.5	56.5	29.0	↑	-14.5
卸・小売業	19.3	49.1	31.6	-12.3	-22.2	17.9	37.5	44.6	↓	-26.7
情報通信業	14.3	85.7	0.0	14.3	28.6	14.3	85.7	0.0	→	14.3
不動産業	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	↑	25.0

地域別分類集計

(単位: %)

四半期別	平成27年10-12月期				平成28年1-3月期				平成28年4-6月期			
	前期実績				今期実績				来期見通し			
	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.	良くなる 増加 多い 上昇 増員 容易	不変	悪くなる 減少 少ない 低下 減員 困難	D.I.
項目	①	②	③	①-③	①	②	③	前期比 ①-③	①	②	③	今期比 ①-③
業況	34.8	42.5	22.7	12.1	24.4	47.2	28.4	↓	22.8	51.2	26.0	▲ 3.2
福井地区	36.2	40.0	23.8	12.4	24.6	52.7	22.8	↓	20.4	50.9	28.7	▲ 8.3
坂井地区	38.3	36.2	25.5	12.8	34.1	40.9	25.0	↓	29.5	50.0	20.5	▲ 9.0
丹南地区	33.6	47.3	19.1	14.5	23.2	44.2	32.6	↓	22.1	55.8	22.1	▲ 0.0
奥越地区	20.0	70.0	10.0	10.0	11.1	66.7	22.2	↓	22.2	55.6	22.2	▲ 0.0
嶺南地区	32.4	42.6	25.0	7.4	21.0	38.7	40.3	↓	25.8	45.2	29.0	▲ 3.2
売上(工事)高	37.4	36.3	26.4	11.0	27.1	41.8	31.1	↓	25.0	47.3	27.7	▲ 2.7
福井地区	40.5	31.9	27.6	12.9	28.3	44.6	27.1	↓	24.7	49.4	25.9	▲ 1.2
坂井地区	52.2	26.1	21.7	30.5	36.4	36.4	27.3	↓	29.5	45.5	25.0	▲ 4.5
丹南地区	33.6	42.7	23.6	10.0	26.3	41.1	32.6	↓	24.2	47.4	28.4	▲ 4.2
奥越地区	20.0	60.0	20.0	0.0	11.1	55.6	33.3	↓	22.2	55.6	22.2	▲ 0.0
嶺南地区	26.5	42.6	30.9	▲ 4.4	21.0	37.1	41.9	↓	24.2	41.9	33.9	▲ 9.7
収益	31.2	45.2	23.6	7.6	23.6	48.8	27.6	↓	22.9	47.3	29.8	▲ 6.9
福井地区	33.3	42.4	24.3	9.0	22.2	55.1	22.8	↓	19.2	51.5	29.3	▲ 10.1
坂井地区	38.3	40.4	21.3	17.0	36.4	38.6	25.0	↓	25.0	43.2	31.8	▲ 6.8
丹南地区	28.2	50.0	21.8	6.4	21.1	48.4	30.5	↓	25.3	46.3	28.4	▲ 3.1
奥越地区	20.0	70.0	10.0	10.0	22.2	44.4	33.3	↓	22.2	44.4	33.3	▲ 11.1
嶺南地区	26.5	45.6	27.9	▲ 1.4	22.6	40.3	37.1	↓	27.9	41.0	31.1	▲ 3.2
受注残高	29.1	43.0	27.8	1.3	21.1	48.7	30.2	↓	24.5	44.0	31.5	▲ 7.0
福井地区	29.6	37.8	32.6	▲ 3.0	24.2	46.7	29.2	↓	23.3	43.3	33.3	▲ 10.0
坂井地区	34.4	46.9	18.8	15.6	14.8	51.9	33.3	↓	29.6	44.4	25.9	▲ 3.7
丹南地区	29.3	52.4	18.3	11.0	21.3	49.3	29.3	↓	24.0	50.7	25.3	▲ 1.3
奥越地区	37.5	37.5	25.0	12.5	0.0	57.1	42.9	↓	14.3	42.9	42.9	▲ 28.6
嶺南地区	24.5	40.8	34.7	▲ 10.2	19.6	50.0	30.4	↓	27.3	34.1	38.6	▲ 11.3
製(商)品販売価格	23.3	64.8	11.9	11.4	15.1	70.9	14.0	↓	13.1	73.3	13.7	▲ 0.6
福井地区	24.6	62.6	12.8	11.8	17.6	68.6	13.8	↓	15.7	73.0	11.3	▲ 4.4
坂井地区	26.2	66.7	7.1	19.1	15.0	77.5	7.5	↓	7.5	87.5	5.0	▲ 2.5
丹南地区	21.4	71.4	7.1	14.3	11.5	71.3	17.2	↓	9.2	70.1	20.7	▲ 11.5
奥越地区	20.0	80.0	0.0	20.0	11.1	66.7	22.2	↓	22.2	33.3	44.4	▲ 22.2
嶺南地区	20.7	56.9	22.4	▲ 1.7	14.6	72.9	12.5	↑	14.6	75.0	10.4	▲ 4.2
原材料(仕入・資材)価格	35.2	51.5	13.2	22.0	23.4	60.6	16.0	↓	22.1	68.8	9.1	▲ 13.0
福井地区	33.5	56.7	9.9	23.6	26.2	62.2	11.6	↓	23.8	67.1	9.1	▲ 14.7
坂井地区	39.0	48.8	12.2	26.8	17.1	70.7	12.2	↓	26.8	68.3	4.9	▲ 21.9
丹南地区	37.1	47.6	15.2	21.9	19.6	58.7	21.7	↓	18.7	70.3	11.0	▲ 7.7
奥越地区	30.0	70.0	0.0	30.0	11.1	66.7	22.2	↓	22.2	77.8	0.0	▲ 22.2
嶺南地区	35.9	40.6	23.4	12.5	28.6	50.0	21.4	↓	19.6	69.6	10.7	▲ 8.9
在庫	16.3	66.1	17.6	▲ 1.3	15.5	68.0	16.5	↑	10.9	74.9	14.2	▲ 3.3
福井地区	17.1	64.6	18.2	▲ 1.1	15.7	70.7	13.6	↑	10.0	75.7	14.3	▲ 4.3
坂井地区	13.5	75.7	10.8	2.7	16.1	71.0	12.9	↑	12.9	71.0	16.1	▲ 3.2
丹南地区	18.6	67.4	14.0	4.6	16.7	63.9	19.4	↓	13.1	73.8	13.1	▲ 0.0
奥越地区	0.0	62.5	37.5	▲ 37.5	0.0	100.0	0.0	↑	0.0	100.0	0.0	▲ 0.0
嶺南地区	10.6	68.1	21.3	▲ 10.7	14.3	66.7	19.0	↑	9.5	73.8	16.7	▲ 7.2
雇用者	33.8	51.6	14.6	19.2	28.9	54.0	17.1	↓	35.6	56.7	7.8	▲ 27.8
福井地区	35.2	51.4	13.3	21.9	29.3	55.1	15.6	↓	36.5	58.1	5.4	▲ 31.1
坂井地区	40.4	44.7	14.9	25.5	38.6	45.5	15.9	↓	45.5	43.2	11.4	▲ 34.1
丹南地区	34.9	49.5	15.6	19.3	25.8	57.0	17.2	↓	32.3	58.1	9.7	▲ 22.6
奥越地区	30.0	50.0	20.0	10.0	37.5	50.0	12.5	↑	12.5	87.5	0.0	▲ 12.5
嶺南地区	23.5	60.3	16.2	7.3	24.2	53.2	22.6	↓	33.9	56.5	9.7	▲ 24.2
資金繰り	17.8	74.8	7.4	10.4	16.9	77.4	5.6	↑	16.9	76.9	6.2	▲ 10.8
福井地区	16.3	77.5	6.2	10.1	15.1	80.7	4.2	↑	19.9	74.1	6.0	▲ 13.9
坂井地区	29.8	63.8	6.4	23.4	30.2	62.8	7.0	↓	27.9	69.8	2.3	▲ 25.6
丹南地区	19.1	72.7	8.2	10.9	12.9	81.7	5.4	↓	11.8	86.0	2.2	▲ 9.6
奥越地区	30.0	70.0	0.0	30.0	12.5	87.5	0.0	↓	0.0	100.0	0.0	▲ 0.0
嶺南地区	10.3	77.9	11.8	▲ 1.5	19.4	71.0	9.7	↑	11.3	72.6	16.1	▲ 4.8

越前箆笥

越前武生の木工の起源は、奈良時代に遡るといわれています。古来より越前の地は渡来人などとともに様々な技術や文化が往来し、越前箆笥の原型も、古代近くには存在していたのかも知れません。現在の技法が確立したのは江戸時代後期といわれ、今も材料の厳選、仕口の吟味、従来技法の伝承など、職人のこだわりが守り継がれています。

越前箆笥とは

越前箆笥は、樺や桐等の木材を独自の指物技術を使って福井県越前市(旧武生市、今立町)や鯖江市で製造されています。越前箆笥は本体に漆塗を施し、鍛鉄による多くの装飾の金具を打ち付けた重厚な作りが特徴となっています。漆塗には河和田漆器の技術を使うことで独特の風合いと丈夫さをもたらしています。また、飾金具には越前打刃物の技術が活かされ、鍛造による微妙な凹凸が箆笥にどこか柔らかい雰囲気を与えています。飾金具のデザインには猪目や花菱のモチーフが多く使われています。ハートマーク型の猪目は諸説ありますが、猪の目をもって魔除けとしたとも、菩提樹の葉の形だとも言われています。花菱は正倉院の時代から今日までおめでたい文様とされています。越前箆笥は平成25年12月に福井県で7つ目となる伝統的工芸品として、国の指定を受けました。かつては商家などの帳場等で重要物を保管する金庫の役割を果たしていましたが、現在では高級インテリアとして高い評価を得ています。



越前箆笥の歴史

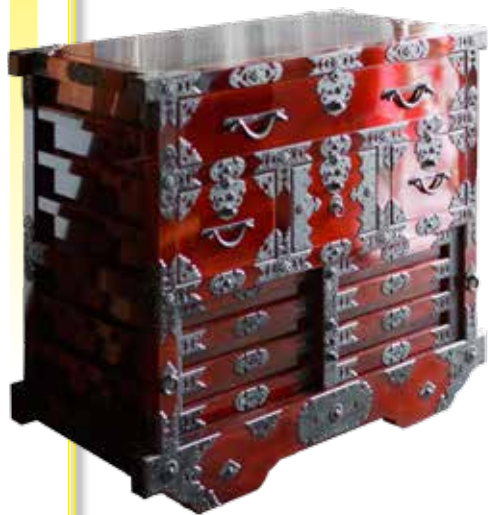
越前武生の木工(指物)の歴史は古く、最古のものは法隆寺にある国宝「橘夫人厨子(7~8世紀)」の台座に「越前」の墨書きがあるのが確認されています。7世紀末に「越前」「越中」「越後」の三国が成立しましたが、その中でも越前の国は大きく、現在の石川県の加賀や能登までを含んでいたといわれ、その中心が越前国府であり今の越前市(旧武生市)です。越前市が越前の国の交流・文化の中心として栄えたことは、まちなかに多く点在する神社仏閣からもみてとれます。これら多くの神社仏閣において多く使われ、必要とされ育まれたものが、釘を使わずに木と木を組み合わせて作る技術「指物」です。指物の技術は家具や建具、調度類に活かされて来ました。

江戸時代末期から明治初期にかけて、能面など工芸的な仕事をしてきた者や農民の中でもお膳風呂、板戸などをつくっていた器用な者が専門化し、指物師として町方、村方の富裕層である旦那衆の家に出入りするようになりました。越前箆笥を造る職人たちが集まり住んだところは「タンス町」とよばれ今日も旧武生市内に現存します。

大正~昭和に入ると越前桐箆笥とともに高品質な「武生箆笥」として需要が増え、婚礼にこの箆笥を支度することが憧れとなり多くの人が嫁入り道具を求めて賑わいました。昭和26年に武生木工協同組合・指導所を設置、昭和32年には武生木製品展示会を開始、昭和42年には京都会館で見本市を行い県外への進出を果たしました。

しかし高度成長期を経て住宅環境が変化し始めると、箆笥の需要に陰りがみられ、オイルショック等の経済不況や中国などの外国の廉価製品に押され、高価な越前箆笥の需要は激減しました。

そのような中でも伝統技術の継承とともに新商品の開発やデザイン力の向上、地道な需要開拓を続けています。



1. 越前箆笥産地の現状

越前箆笥の生産者の状況は、事業所数23社、1社当たりの社員数は3~4人と小規模な事業所が多く、製造販売を一貫して行っています。家具や建具、作り付け家具等の割合が多く、越前箆笥自体の生産は多くはありません。また、近年の生活様式の変化等により需要が減少していることは伝統工芸品産業が抱える大きな問題の一つで、越前箆笥も例外ではなく、事業所数・出荷数ともに約10年で半減し、最近5年間は横ばいとなっています。

指物の技術を習得するには年季が必要であり、普通のガラス戸の田の字を組み上げるだけでも4~5年、障子の中骨を作れるようになるには更に長い修行を積む必要があると言われています。木と木をしっかりと隙間なく合わせる「仕口」を自分の手で作ることが出来るようになって初めて「指物師」として一人前とみなされます。越前箆笥を作るためには「指物師」としての技術に加えて飾金具作りの技術も必要で、一人で全ての工程を仕上げられるようになるには様々な技術の習得が必要となります。

近年は熟練技術者の高齢化に加えて、経営的な事情により個々の事業所での新たな技術者養成が困難となっており、長年伝えてきた箆笥作りの技術の消滅が危惧されるようになりました。

こうした状況に越前指物組合は、平成25年12月に伝統的工芸品の指定を受け、産地が一体となって越前箆笥の「伝統の形と技術」の継承と存続に取り組んでいます。



↑ 飾金具の作成の一過程。

越前指物組合の上坂哲夫理事長より、伝統的工芸品の認定への経緯と今後の展望についてお聞きしました。

箆笥や建具などの「指物」は、木を削り、板と板、板と棒、棒と棒を組んで指し合わせることに由来するといわれています。もともと「越前指物」は福井県の郷土工芸品に指定されていることもあり、当初は、箆笥をはじめ他の越前武生の木工(指物)全体で伝統的工芸品の指定を目指していました。平成15年に同業者40社で越前指物組合を設立し準備に入りましたが、建具は建物の一部で製品ではなく、また唐木も他産地と類似するとの指摘があり、箆笥のみの申請に切り替えました。しかしながら、指定の条件である100年以上の伝統を実証できる製品や文書が見つからず、なかなか作業は進みませんでした。そうこうするうち、リーマンショックが起これ組合員も減るなどしたため、一時は伝統的工芸品の指定を諦めかけていました。

大きく流れが変わったのは、昔の花嫁行列が出てくる映画「フラワーズ」(平成22年6月公開)がきっかけです。映画の助監督が、撮影で使う箆笥などを探しに越前市を訪れたときに、旧今立町の旧家から江戸時代に作られた車箆笥が見つかりました。見つかった車箆笥には製造年や職人の名が書かれていて、さらに調べると工賃表や箆笥の図面、打刃物問屋の帳場箆笥など、これまでに見つかっていなかった伝統を証明する資料が出てきました。



↑ 帳場箆笥を手にする上坂哲夫理事長。
安政四年 巳正月吉日と銘が記されている。



← 帳場箆笥の中には、帳場で使う「そろばん」と「硯入れ」が入っています。



→ 帳場が終われば箆笥の中に収納されました。

資料の発見により、指定を目指してから11年の歳月がかかりましたが、平成25年12月に国の伝統的工芸品の指定を受けることが叶いました。指定を受けたことで、平成26年度からは福井県が進めている福井の伝統工芸のブランド力を高める取組み「越前ものづくりの里プロジェクト協議会」に参画し、製品を売るだけでなく、展示や体験が出来る施設を造る計画が進んでいます。また、産地が一体となって後継者育成に取り組んでいて、全国から自ら希望して伝統的工芸品の産業に飛び込んできた若手職人を受け入れています。高い志をもつ若者が一人前に成長し、越前指物の伝統を受け継いでくれることを期待しています。



↑後継者育成への熱意を語る上坂哲夫理事長

平成27年度からは、越前の匠が製作に携わったとされる国宝「橘夫人厨子」の複製作りに取り組んでいます。福井県や越前市の支援と協力を得て、実際に法隆寺に足を運んで実物や資料を見たり、解体記録を研究して複製のための図面をおこしています。今は材料を乾燥機に入れてあり、平成28年度からは、実際の複製作業に入る予定で、平成29年の完成を目指しています。完成後はギャラリー等へ展示して越前筆筒のシンボルとし、越前筆筒のブランド価値を高めることで、生産量の増加に繋がることを期待しています。また、今回の取組みを通じて若手職人への伝統技の継承と技術力の向上を図りたいと考えています。



↑小柳さん

伝統工芸職人塾で越前筆筒を学ぶ塾生（大平さん、長尾さん、渡辺さん）と、塾生を受け入れている小柳筆筒の小柳さんにお話を伺いました。

—伝統工芸職人塾に応募されたきっかけについて教えてください。

長尾さん 僕は、昔ながらの技というものに興味があって、初め木工の訓練所に通いました。伝統工芸の技術を身につけたいと思って、たまたまインターネットで検索していたら、福井県が



↑左から塾生の大平さん、長尾さん、渡辺さん

伝統工芸職人塾の塾生を募集しているのを見つけて応募しました。一旦、タンス町の別の会社に入ったのですが、やはり職人の方に直に話を聞きながら勉強したいと思って、こちらの工房に来ました。

大平さん 私は、ただ木工関係の仕事がしたいと思って、小柳さんの会社に行ったところ、直に教えていただけるということで入社しました。

—大平さんは、伝統工芸に興味があった訳ではないのですか。

大平さん 伝統工芸について詳しくないどころか、越前筆筒自体も知りませんでした。父が越前漆器の職人で蒔絵師をしているので、伝統工芸に多少関係していたのですが、そういう意識はありませんでした。伝統工芸職人塾に入ってから、親の仕事も少しづつ分かるようになりました。

小柳さん 彼女はもともと物づくりが好きなのだと思います。木で何かを作ることに憧れがあったのでしょうか。越前筆筒については、後になってから興味を持ったという感じです。漆器職人のお父さんの影響でしょうか、職人氣質もあって手先も器用です。

—筆筒一棹作るのに熟練の職人でも半年かかるとお聞きしましたが。

小柳さん 伝統工芸を一言でいうと「手間暇」だと思います。すべて合理化してしまうと、出来上がったものは普通のものになってしまう。工芸とか伝統

とかを守ろうとすると「手間暇」がかかります。とにかく時間と手間がかかるところを、彼らに伝えていきたいと思います。合理化して簡単にやろうと思えばいくらでも出来るけれども、伝統工芸の本質は手間暇なので、それを分かってもらいたいと思います。

私自身、箆笥一棹作るのに1年かかりました。越前箆笥は、木と鉄と漆の三要素で成り立っているのです、それぞれの要素で手を抜かずに伝統の技術のままで作ろうとすると、相当高価なものになるし、また職人も大変な労力がかかります。でも、そこに魅力があって、作られた箆笥が先祖代々続いていくものになっていくと思っています。結局、魂を込めて作らないと、骨董品にもならないし、ずっと続いていく商品にもならない。塾生の彼らには、そこを理解した上で新しいことに取組んでほしいと思います。

—小柳さんは、もともと地元の方ですか。

小柳さん 僕で4代目になります。19歳で工房に入りました。伝統工芸職人塾では、指物技術や飾金具といった技術的なことを教えています。職人塾では、技術のほかにデザイン・商品開発の手法とか県内外から講師を呼んで座学をやっています。

渡辺さん 隔週火曜日の夜6時くらいから漆器や打刃物といった伝統的工芸品5産地が集まって、伝統工芸職人塾の座学として受講しています。

—学んでいるなかで新しい工芸品も生み出されるのでしょうか、座学では他の産地との交流もありそうですね。

小柳さん 今年の11月に「第33回伝統的工芸品月間国民会議全国大会」がサンドーム福井で開催されます。塾生たちには、それに向けて作品を作るように言っています。作品を作って発表することで、技術力が身につけば良いと思っています。越前箆笥は指物のほかに金具や漆の技術も必要としますので、他の産地の伝統の世界を見てほしいと思います。全部できると一番いいのですが、どうしても分業になっていこうとしています。ほかの産地でも結構分業化が進んでいるので、その工程の人がいなくなると全体がなくなってしまうような話を聞きます。

—最後に、伝統工芸についての思いを。

小柳さん これまで越前箆笥に限らず伝統工芸というと、ずっと右肩下がりで来ましたが、ここにきて少し良くなってきていると感じています。特に「モノづくり」というキーワードが、今すごく注目されて、伝統工芸品の指定を受けて、良い機会が訪れていると感じています。一時は、どの産地も熟練職人の高齢化が問題となっていましたから、若い人が入ってきて産地の活動が活性化してきているというのはよい状況だと思います。

タンス町通り



指物師や漆塗師などの職人が集まり住んだ所で、昭和には婚礼家具として越前箆笥を買い求める客で大いに賑わいました。例年11月に開催されているタンス町の屋台祭りでは、1950年代頃の花嫁行列を再現した「昭和の花嫁行列」が披露されています。現在ではほとんど見ることがなくなった花嫁行列を目当てに、大勢の市民やカメラマンが沿道に詰めかけ賑わいをみせます。



福井銀行と 「競技かるた」

当行行員が「かるた名人」に。

1月9日、競技かるたの実力日本一を決める第62期名人位戦が天津市で行われ、挑戦者として出場した岩堀文義行員（競技かるたでは「川崎」姓を使用しています）が4連覇を狙う岸田諭名人を破り、福井県勢の悲願であった名人位に輝きました。岩堀行員自身は5年ぶり2度目、所属する福井渚会の選手としては13度目の挑戦でした。競技かるたでは、現名人の辞退による決定戦ではなく、現名人を挑戦者が破って名人位を獲得するケースは珍しく1999年以降のことで、大変名誉なことです。また、3月6日に東京都で行われた第31回全国選抜大会においても名人位戦の勢いを維持し、8年ぶり2度目の優勝を果たし、2冠を達成しました。こうした活躍が認められ、3月22日に発表された福井県文化賞では、文化奨励賞を受賞しました。



頭取に名人位の獲得報告をする岩堀行員（右側中央）

● 竹下種池支店長
● 岩堀行員（川崎名人）
● 山崎本店営業部副部長（元クイーン・渚会会長）
● 林頭取

豊かな地域社会の実現のために。

当行は、経営理念として、豊かな地域社会の実現のために「職員の満足（働きがい）」「お客さま（地域）のご満足」「株主の方々（投資家のみなさま）のご満足」をバランスよく高める経営の実現を目指しています。

トライアングルバランスの1つである「職員の満足（働きがい）」の取組みとして、ダイバーシティ推進プロジェクトチームを立上げ、若手職員の積極登用、女性職員の活躍、ベテラン職員の経験の活用をより一層進め、行員ひとりひとりが毎日の仕事にやりがいを感じ、いきいきと働ける職場環境の整備（「働き方改革」）を進めています。この「働き方改革」の一つとして、事務削減、業務改善とともに「働く時間」に対する意識改革を進め、全職員が健康で安定した環境でいきいきと働けるよう総労働時間の短縮に取組み、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の実現を目指しています。

かるたと仕事のワークライフバランスを実践し、見事に名人位を獲得した岩堀行員の挑戦を、当行はこれからも応援します。また、1人ひとりが仕事以外にも活躍の場を広げることで、お客さまとのコミュニケーション能力の向上が図られたり、通常の活動では得られない人脈や知識などを身に着けることで、ひいてはお客さまに対してもより良い影響が及ぼされることを期待しています。



岩堀行員（川崎名人）

いまさら聞けない「競技かるた」のいろは



Q.「競技かるた」とは

読み上げられる上の句を聞いて、素早く下の句の書かれた札を取りに行く競技。一見すると、百人一首の歌を全て暗記すれば簡単に出来そうですが、実際は、試合の進展にしたがって読まれた札を覚え直す作業をひたすら繰り返す、高い記憶力と精神力、そして体力も求められる「畳の上の格闘技」と言われています。

Q.「決まり字」

札によって1～6文字の長さで、上の句のここまで聞けばどの札が分かるという「決まり字」があります。例えば、「ちはやふる～」の場合は、「ち」で始まる札は「ちぎりおし～」「ちぎりきな～」と3枚あり、「ちは」まで聞けば札が確定しますので「2字決まり」となります。試合が進んでいくと札の決まり字が変化していきます。

Q.「お手つき」

読まれた札がない陣地の札に触れてしまうと「お手つき」となります。つまり、「自陣にある札が読まれたのに、敵陣の札に触れてしまった場合」や「敵陣にある札が読まれたのに、自陣の札に触れてしまった場合」です。また「空札が読まれたのに、札に触れてしまった場合」も「お手つき」となります。「お手つき」をした場合、相手側から札を1枚送られることになります。

Q.「競技かるた」の試合の形式

100枚ある百人一首の札から互いに25枚ずつ取り、3段分けて並べます。残り50枚は試合に使用しない「空札」となります。読み手は、空札を合わせた100枚全ての札を読みます。自陣の札を取ったら1枚減り、敵陣の札を取ったら自陣の札から1枚敵陣に送って自陣の札を1枚減らします。これを繰り返して早く自陣の札をゼロにした方が勝ちとなります。

Q.「名人位戦」と「クイーン位戦」

競技かるたにおいて最高峰と言われる名人位戦は1955年、クイーン位戦は1957年に始まりました。A級（4段以上）の選手が東日本と西日本に分かれて予選を行い、東西の優勝者同士で挑戦者決定戦を行います。その勝者が名人・クイーンに挑戦することが出来ます。今回、岩堀行員が福井県勢初の名人位獲得となりました。クイーン位は山崎みゆき本店営業部副部長（福井渚会会長）が1991年に獲得しています。

Q.「攻めがるた」

福井伝統と言われる「攻めがるた」は、敵陣に奥深く攻め込んで、相手の札を積極的に取りに行く戦い方です。相手に「取られる」という心理的プレッシャーを与え、自陣の札をバランスの良い形にすることが出来ます。自分で試合の流れをつくり、攻めながら自陣は防御する、攻めは最大の防御を具現化した戦法です。

1 「中所得国の罠」に直面するタイ

今、タイは「中所得国の罠」に直面している。「中所得国の罠」とは低所得国が自国の低賃金労働力という強みにより輸出で稼ぎ、中所得国に移行したものの、なかなか高所得の先進国に追いつけないことを指し、自国の賃金上昇する中で低所得国からは追い上げられ、経済が停滞する状況のことである。アジアの多くの国が直面しており、タイのほか中国やマレーシア、インドネシアなども懸念されている。近年のタイは積極的な外資誘致策を行い、自動車産業を軸に目まぐるしい成長を遂げてきた。しかし、ここ数年は政治的低迷、洪水、経済的回復の遅延が足かせとなっており、2015年12月末に発行したAEC（アセアン経済共同体）の効果も即効性は望めない。

日本を含む12か国は、2015年10月に環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の大筋合意に至った。同協定は加盟12か国間に対し同地域の自由貿易圏を構築するもので、約7年間にわたり交渉が行われてきた。同協定により加盟国は、輸出・投資機会を拡大し、経済の活性化を図ることができるものと期待されている。ASEANではシンガポール、ベトナム、マレーシア、ブルネイが加盟している一方で、タイは加盟国に入っていない。

「タイはASEANの中心」という地理的優位性を強みとして唱えてきたタイにおいて、TPPに加盟したASEAN3か国（シンガポール、ベトナム、マレーシア）はどう映えるのか。日本国内でも物議を醸したTPPであるが、今回はタイからの視点でTPPの影響と今後の展望について考えてみたい。

2 貿易取引における TPP 加盟国とタイの関係

TPP加盟12か国のGDP総額は、米国、日本、カナダを筆頭に2014年時点で28兆3千億米ドルで、世界のGDP総額の36.4%を占める。また、TPP加盟国の2014年の総貿易高は9兆6千億米ドルで世界の貿易総額の25.3%を占める。対タイの貿易取引でも、2015年1～10月期のタイ総輸入額の37.6%（641億米ドル）、総輸出額の41.3%（744億米ドル）を占める。

タイの輸出入総額シェアから見ても、TPP加盟国はタイにとって非常に重要な存在であり、中でも加盟ASEAN3か国（シンガポール、ベトナム、マレーシア）及び日本、米国はタイの貿易相手国として長い歴史がある。米国はタイの輸入先国第一位だが、FTA（自由貿易協定）協議は2006年のクーデターにより停止されたままである。現在タイが米国から受けている一般特恵関税制度（Generalized System of Preferences : GSP）に基づく特別待遇は2年後に失効する。2015年初頭にEUがGSP特権を廃止したことにより、米国も同様の対策を採る可能性が高まると考えられ、TPP非加盟国であるタイは貿易・経済に莫大な損失を被る可能性が懸念されている。

3 米国との貿易

米国がタイへのGSPを失効・廃止した場合、タイの輸出品に対する関税は0.4%増加し、年に2.3～2.7%（95百万米ドル相当）の関税増加となる。その結果、TPP合意と相まって、タイは特にTPP加盟国のベトナム、マレーシアなどへの貿易転換（貿易取引をより障壁の高い輸出国からより低い輸出国に置き換えられること）の影響を被る可能性が高い。

表1にあるように、米国の貿易総額においてタイはベトナムやマレーシアと大差ない。しかしTPP合意により、ベトナムとマレーシアは米国向け輸出において貿易競争力が強化される。2014年のタイの総輸出のうち米国向けが11%を占めており、貿易シェアがベトナムやマレーシアに浸食された場合、大きな痛手となるだろう。

表1:米国の貿易相手国(2015年1～10月期)

ランク	国名	貿易総額 (百万米ドル)	シェア(%)	変化(%) 2014年比
1	カナダ	293,660	15.7	-10.3
2	中国	282,574	15.1	3.7
3	メキシコ	262,455	14.0	0.1
4	日本	99,011	5.3	-0.8
5	ドイツ	85,344	4.6	0.0
6	韓国	59,095	3.2	5.1
7	イギリス	57,793	3.1	9.0
8	フランス	38,488	2.1	-2.5
9	インド	34,066	1.8	6.2
10	台湾	33,573	1.8	0.5
16	シンガポール	27,197	1.2	1.3
18	マレーシア	22,691	1.2	12.1
21	ベトナム	20,882	1.1	25.2
22	タイ	20,028	1.1	9.0

出所: World Trade Atlas

4 TPP がタイの産業にもたらす影響

表2はタイがTPPに加盟しない場合に悪影響を受けやすいタイの産業分類を示したものである。カシコン銀行(当行提携先)リサーチセンターの分析によると、グループ1の産業は基本的にベトナムなどのTPP加盟国と競合し、これらの国に対してタイの競争力が低い産業である。これらの産業はその製造が労働力に依存する(労働集約型産業)もので、主要輸出国は米国である。各国の最低賃金は上昇を続けており、製品自体の価値も魅力が乏しくなりつつある。

例えば、衣料品や服飾品はGSP特権下でも関税が10%以上になる。TPPが完全に施行されれば、ベトナムからのこれらの産業製品のTPP加盟国への輸出、特にタイがまだFTA合意に至っていない米国、カナダ、メキシコへの輸出は完全に関税免除となる。

したがって、タイの製造拠点を他のTPP加盟国に移転する(タイプラスワン)製造業者が出てくる可能性が高い。米国がタイのGSP特権を廃止・解消すると決定した場合、上記産業に従事する企業またそのサプライチェーン従事企業は最悪の場合、関税特恵の実施されているベトナム、マレーシア、カンボジアなどの近隣国に製造拠点の移転を検討せざるを得ないだろう。

原材料の面においても、紡績糸、布地などをはじめとしたいくつかの原材料については、タイからの輸出がTPPの原産地規則により、関税のかからない他の供給国に代替される可能性がある。それによってベトナム、マレーシアは間違いなく原産地規則の恩恵を受けるであろう。

表2:TPPに加盟しない場合の影響度合別 影響を受ける産業

グループ1 影響 大
テキスタイル 衣料品 服飾品 靴・部品 革製品 (ハンドバッグ、牛革等)
グループ2 影響 中
電子機器・部品 (HDD 等) ゴム製品 石油化学製品 自動車
グループ3 影響 小
海産品 (調理済みまたは保存魚介類・甲殻類) 加工食品 宝石・宝飾品

出所:カシコン銀行リサーチセンター

5 貿易取引における TPP 加盟国とタイの関係

タイのTPP加盟に関し世論が最も反対するTPP合意規定が三つある。知的所有権、投資、国有企業に関する規定で、タイの農家、製造業者、企業にとって不利な内容だと考えられている。

表3:タイの将来のTPP加盟

TPP 加盟賛成意見	TPP 加盟反対意見
- 関税障壁撤廃・削減による輸出部門の経済的低迷からの再生 - 国際基準を準拠することによるサービス部門の改善 - 米国に対するタイの交渉力の強化 - 貿易転換の防止 - タイがまだFTAを締結していない米国、カナダ、メキシコ市場へのアクセスが向上 - FDI流入の急増、自動車、電子機器など製造拠点移転の防止 - 新市場での貿易機会においてベトナム、マレーシアと対等な地位獲得 - 新市場での貿易転換、投資機会の獲得	- サービス部門への外国企業進出により国内企業の競争力の脆弱化 - 政府の方針監督権限が限定されることにより、医薬品産業での知的所有権問題などで一般国民に対して影響が懸念される - TPPは「生きている合意」で、将来発生する合意の変更はすべて疑義が受け入れられなければならない、将来的なタイ国家、経済安全保障を失う可能性がある - 医薬品データ保護により救命医薬品へのアクセスが制限され、医療コスト増加に繋がる - ASEAN及びASEANが制定するその他合意の役割を減じる(AECなど) - 輸入関税障壁の撤廃、削減は国内製品の脅威となる可能性がある(主に農業) - 地元農家は米国など外国の農業法人との競争には立場が弱すぎる - タイ政府権限を損ない、タイ企業の競争力を弱める可能性(内国民待遇)

出所:新聞記事に基づき筆者が編集

6 まとめ

これまでTPP加盟に対するタイの立場は不明確であった。タイ副首相はかつて「我々はTPP加盟に非常に興味があるが、メリット、デメリットを熟慮しなければならない」と述べた。しかし、TPP加盟は農業、サービスなどの産業部門に不満をもたらす可能性があるため、政府は立場を保留してきた。農業国タイにおいて、人口の大半を占める農家への経済的影響の整理は依然ついていない、または困難という見方も強い。

TPPに加盟しないことはタイの貿易、経済に大きな影響を与える。TPP加盟に向けた動きに乗り遅れることは、タイの貿易競合国ベトナム、マレーシアに対する競争力低下及び米国市場における機会喪失を意味する。加えてベトナム、マレーシアには製造拠点の移転、FDI(外国直接投資)流入の急増が見込まれ、その内ある程度はタイからの移転となるであろう。

タイが加盟に躊躇している主な理由は、前項に記載した、知的所有権、投資、国有企業に関するTPP合意規定で、その影響の研究・調査のためタイの立場表明はあと数年遅れる見通しである。知的所有権、投資、国有企業に関する規定は、タイの反対派の目にはタイの現存の貿易法、伝統(華僑系財閥体質と農業国の両面)に本質的に挑戦するものと映っている。



	大型小売店販売額		新車登録（届出）台数				家計（福井市2人以上の世帯のうち勤労者世帯）				
			合計		内軽乗用車販売台数		消費支出		平均消費性向		
	百万円	前年比	台数	前年比	台数	前年比	円	前年比	%	前年比ポイント	
	年度	年		年		年		年		年	
2012年	71,585	▲1.2%	44,117	25.6%	18,965	30.2%	287,169	▲17.6%	65.2%	▲6.6	
2013年	74,600	4.2%	44,014	▲0.2%	19,685	3.8%	328,742	14.5%	69.0%	3.8	
2014年	75,155	0.7%	46,105	4.7%	21,407	8.7%	304,400	▲7.4%	63.6%	▲5.4	
2015年	2	5,864	2.0%	4,356	▲15.1%	1,931	▲13.3%	263,038	▲9.7%	57.2%	▲1.5
	3	6,194	▲6.4%	7,266	▲13.6%	3,173	▲13.8%	301,102	▲33.6%	84.0%	▲62.2
	4	6,075	3.7%	2,447	▲15.6%	1,064	▲25.9%	284,046	▲31.1%	67.5%	▲15.3
	5	6,269	8.7%	2,454	▲13.0%	1,050	▲19.8%	307,129	3.2%	86.7%	1.5
	6	6,359	2.0%	3,428	▲1.1%	1,426	▲12.1%	265,510	▲12.4%	45.0%	3.7
	7	6,103	3.1%	3,210	▲14.4%	1,271	▲23.7%	279,851	0.1%	50.7%	▲4.2
	8	6,300	2.9%	2,490	0.1%	1,024	▲11.8%	357,871	23.0%	74.4%	14.2
	9	5,590	2.5%	3,836	▲4.5%	1,560	▲15.0%	317,023	40.4%	76.2%	13.3
	10	5,923	3.8%	2,813	▲5.5%	1,212	▲5.8%	356,766	48.6%	78.9%	27.6
	11	6,222	▲1.9%	2,871	▲13.1%	1,274	▲20.8%	235,824	2.6%	61.6%	▲2.4
	12	7,160	1.6%	2,682	▲24.2%	1,028	▲49.4%	295,954	▲6.1%	42.2%	4.5
2016年	1	7,209	0.5%	2,689	1.3%	1,144	▲9.0%	292,186	4.2%	70.0%	▲4.1
資料出所	近畿経済産業局		福井県自動車販売店協会				総務省統計局（家計調査）				

(注) 大型小売店販売額は全店ベースによる

（注）大型小売店販売額は全店ベースによる

	鉱工業指数（2010＝100）（※1）										
	生産						出荷		在庫		
	総合		機械工業		繊維工業						
	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	季節調整値	前年比（原）	
	年		年		年		年		年		
2012年	111.6	6.0%	137.3	24.4%	101.4	▲6.2%	111.4	5.3%	144.7	17.3%	
2013年	110.9	▲0.6%	139.6	1.7%	97.3	▲4.0%	110.8	▲0.5%	154.3	6.6%	
2014年	112.8	1.7%	145.9	4.5%	89.3	▲8.2%	114.9	3.7%	145.4	▲5.8%	
2015年	2	120.8	12.7%	182.0	43.5%	87.9	▲2.7%	114.8	3.0%	159.7	0.3%
	3	119.1	13.0%	167.3	31.4%	86.6	▲1.1%	110.4	2.7%	161.3	2.8%
	4	117.7	8.4%	167.4	26.6%	87.7	▲1.8%	121.5	9.0%	162.0	4.6%
	5	114.4	2.5%	167.1	19.2%	84.2	▲7.4%	117.4	0.4%	158.6	2.3%
	6	125.5	11.4%	180.1	24.6%	86.5	▲4.0%	122.2	10.3%	161.9	5.2%
	7	123.2	10.7%	171.3	21.1%	86.7	▲4.3%	120.7	5.3%	165.7	9.4%
	8	121.9	8.7%	179.9	23.4%	86.2	▲2.1%	117.4	2.4%	169.4	12.8%
	9	123.8	6.6%	182.6	15.7%	85.7	▲6.4%	123.1	1.2%	172.7	17.2%
	10	124.9	3.3%	190.0	17.5%	86.9	▲2.5%	118.5	▲4.3%	174.8	18.0%
	11	127.3	7.1%	188.2	11.4%	87.2	▲1.6%	124.3	6.4%	181.4	19.4%
	12	120.5	▲0.5%	176.5	0.9%	84.0	▲5.5%	109.7	▲10.0%	193.2	28.5%
	2016年	1	120.4	▲1.5%	173.5	2.1%	87.8	▲4.0%	125.0	▲1.7%	186.5
資料出所	福井県総合政策部政策統計・情報課										
(注) 機械工業＝一般機械工業＋電子部品・デバイス工業＋電気機械工業＋輸送機械工業 (※1) 年間補正実施により、原指数及び季節調整済指数は変更されています。											

（注）機械工業＝一般機械工業＋電子部品・デバイス工業＋電気機械工業＋輸送機械工業（※1）年間補正実施により、原指数及び季節調整済指数は変更されています。

	新設住宅着工戸数								繊維生産		
	合計		持家		貸家		分譲住宅		総生産高		
	戸	前年比	戸	前年比	戸	前年比	戸	前年比	千㎡	前年比	
	年		年		年		年		年		
2012年	3,614	▲9.9%	2,376	0.3%	880	▲31.5%	352	19.7%	199,209	▲10.2%	
2013年	4,439	22.8%	3,073	29.3%	925	5.1%	434	23.3%	188,966	▲4.3%	
2014年	3,495	▲21.3%	2,213	▲28.0%	940	1.6%	323	▲25.6%	201,771	5.2%	
2015年	2	206	▲12.3%	153	▲2.5%	28	▲54.1%	25	47.1%	16,139	▲2.2%
	3	437	24.1%	255	7.6%	158	68.1%	24	14.3%	16,439	▲2.3%
	4	265	▲23.4%	183	▲20.4%	56	▲34.9%	26	▲13.3%	16,752	▲2.6%
	5	394	27.1%	234	34.5%	148	72.1%	12	▲76.0%	15,446	▲6.2%
	6	510	51.8%	220	▲1.8%	232	169.8%	57	119.2%	16,541	▲3.2%
	7	376	16.0%	236	30.4%	119	10.2%	21	▲38.2%	16,617	▲5.6%
	8	268	▲9.2%	199	▲9.1%	41	▲32.8%	27	92.9%	15,781	▲0.7%
	9	304	6.7%	218	14.1%	68	▲8.1%	18	▲5.3%	16,119	▲7.6%
	10	366	21.6%	203	9.7%	95	5.6%	68	161.5%	17,083	0.3%
	11	315	6.4%	170	▲4.5%	110	26.4%	34	13.3%	16,357	▲4.1%
	12	312	22.8%	151	11.9%	116	63.4%	44	33.3%	15,886	▲2.2%
2016年	1	218	38.0%	129	19.4%	66	112.9%	23	27.8%	16,182	0.5%
資料出所	国土交通省								県政策統計課		



	建築着工統計（非居住用）床面積								建築着工統計（非居住用）	
	合計		鉱工業		商業用		サービス業用		工事費予定額合計	
	m	前年比	m	前年比	m	前年比	m	前年比	万円	前年比
	年		年		年		年		年	
2012年	378,929	▲0.7%	121,041	13.9%	59,432	20.2%	87,957	0.3%	6,239,388	3.1%
2013年	358,022	▲5.5%	70,414	▲41.8%	65,907	10.9%	73,539	▲16.4%	6,170,046	▲1.1%
2014年	414,130	15.7%	116,277	65.1%	51,525	▲21.8%	40,071	▲45.5%	6,702,161	8.6%
2015年 2	33,267	209.1%	23,004	1104.4%	6,409	76.7%	1,876	2.2%	499,820	217.3%
3	36,253	9.1%	2,566	▲53.1%	3,233	▲47.3%	4,053	▲48.6%	1,043,185	114.8%
4	45,431	53.6%	14,817	390.6%	543	▲88.4%	9,208	691.7%	907,255	75.3%
5	39,427	76.5%	12,101	179.2%	3,638	89.8%	6,460	113.1%	725,723	49.5%
6	33,263	▲17.9%	9,612	▲34.4%	3,910	▲56.2%	11,370	34.3%	758,889	▲7.9%
7	36,331	▲29.9%	16,090	▲39.2%	11,189	105.2%	6,024	62.2%	655,940	▲41.6%
8	22,751	▲14.2%	3,758	▲20.9%	2,920	▲34.4%	11,455	164.5%	589,499	48.0%
9	28,620	54.4%	12,252	68.0%	2,512	94.9%	6,409	1387.0%	493,539	85.1%
10	25,434	22.4%	5,942	60.5%	9,912	100.6%	6,540	2485.0%	418,466	3.3%
11	23,170	33.6%	11,543	222.2%	7,406	755.2%	1,185	▲69.3%	511,144	60.4%
12	35,005	▲70.9%	2,256	▲92.7%	11,180	61.2%	147	▲65.0%	419,533	▲70.3%
2016年 1	6,587	▲50.0%	214	▲74.3%	1,512	▲69.8%	2,421	▲1.9%	127,925	▲44.6%
資料出所	国土交通省									

	企業倒産（負債額1千万円以上）				信用保証		貿易（敦賀港・福井港）				
	件数	前年比	負債額	前年比	金額		輸出	前年比	輸入	前年比	
			百万円		百万円	前年比	百万円		百万円		
	年度		年度		年度		年		年		
2012年	97	14.1%	85,746	377.6%	63,348	▲21.1%	140,834	24.2%	74,544	0.9%	
2013年	64	▲34.0%	8,880	▲89.6%	56,094	▲11.5%	124,057	▲11.9%	82,941	11.3%	
2014年	72	12.5%	17,439	96.4%	45,599	▲18.7%	95,482	▲23.0%	97,850	18.0%	
2015年	2	8	166.7%	2,515	2466.3%	2,579	▲35.6%	7,305	▲11.6%	10,135	70.2%
	3	4	0.0%	2,884	679.5%	3,747	▲47.5%	9,171	1.5%	8,222	13.8%
	4	9	▲25.0%	72,914	3747.7%	2,415	42.0%	9,164	16.7%	8,497	20.2%
	5	6	▲33.3%	2,246	▲14.2%	2,145	▲20.3%	9,873	18.2%	6,363	▲6.1%
	6	4	▲50.0%	108	▲73.1%	3,360	▲24.6%	9,316	14.2%	10,636	44.1%
	7	4	0.0%	457	46.0%	3,934	▲15.5%	9,140	14.8%	9,922	1.9%
	8	2	▲50.0%	112	▲68.7%	4,025	▲7.1%	9,431	22.9%	6,684	▲38.3%
	9	2	▲60.0%	126	▲88.7%	4,688	▲37.5%	8,725	42.9%	7,781	5.3%
	10	5	▲16.7%	392	▲55.1%	2,841	▲16.7%	10,281	24.4%	7,708	▲39.8%
	11	5	25.0%	368	91.1%	2,412	▲10.9%	7,933	▲7.5%	6,847	▲13.8%
	12	5	66.7%	3,628	4802.7%	3,719	▲34.3%	8,813	12.6%	7,242	0.1%
	2016年	1	5	0.0%	1,008	272.0%	2,159	0.4%	7,885	▲4.1%	7,173
資料出所	東京商工リサーチ				信用保証協会		大阪税関				

	眼鏡輸出実績						芦原温泉入込状況		有効求人倍率 (※2)	完全失業率	
	枠類合計		眼鏡枠		眼鏡						
	百万円	前年比	百万円	前年比	百万円	前年比	客数(人)	前年比	倍		
	年		年		年		年		年度	年度	
2012年	22,181	▲6.6%	12,611	▲7.7%	9,571	▲5.0%	767,475	9.1%	1.18	2.6%	
2013年	22,079	▲0.5%	12,881	2.1%	9,198	▲3.9%	734,957	▲4.2%	1.30	2.7%	
2014年	24,661	11.7%	13,703	6.4%	10,958	19.1%	743,877	1.2%	1.50	2.4%	
2015年	2	2,171	1.8%	1,176	0.3%	994	3.6%	67,134	7.8%	1.55	2.1%
	3	2,548	9.7%	1,419	16.2%	1,129	2.4%	73,058	3.6%	1.54	1.9%
	4	2,106	2.4%	1,148	2.3%	957	2.5%	58,875	25.4%	1.57	1.9%
	5	2,281	22.3%	1,220	15.9%	1,061	30.6%	62,904	40.2%	1.57	1.8%
	6	2,074	▲4.3%	1,176	3.9%	898	▲13.3%	60,080	37.1%	1.64	1.8%
	7	2,248	9.9%	1,211	▲5.9%	1,037	36.5%	73,760	35.0%	1.65	1.5%
	8	2,156	8.4%	1,230	7.5%	926	9.6%	110,648	11.1%	1.64	1.3%
	9	1,856	▲0.5%	1,105	6.6%	751	▲9.4%	72,201	63.7%	1.58	1.3%
	10	2,380	22.2%	1,223	7.5%	1,157	42.8%	77,884	42.4%	1.60	1.8%
	11	2,243	▲1.8%	1,124	▲9.8%	1,118	8.0%	89,431	14.7%	1.61	1.9%
	12	2,542	16.0%	1,347	15.1%	1,195	17.1%	89,420	17.9%	1.64	1.7%
	2016年	1	2,397	7.2%	1,204	3.3%	1,193	11.4%	67,045	6.5%	1.64
資料出所	財務省貿易統計						あわら市役所		福井労働局	県政策統計課	

（注）有効求人倍率の年度は原数値、月別は季節調整値 （※2）有効求人倍率の2014年12月以前の数値は新季節指数により改訂されています。

ファイナンス・リースで、地元を元気に。



株式会社 福銀リース



当社は、昭和58年9月に福井銀行グループの総合リース会社として発足いたしました。

情報関連機器・産業機械・土木建設機械・医療機器・商業設備など
あらゆる機械・装置・器具及び備品のファイナンス・リースを通じて、
地元企業の発展に貢献することを目指しております。

会社概要

商 号／株式会社 福銀リース
設 立／昭和58年9月16日
資 本 金／50,000千円
決 算 期／3月(年1回)
所 在 地／福井市照手1丁目2番17号
事業内容／コンピュータ機器、事務用機器、産業機械、工作機械
車輛、医療機器、商業用設備等各種物件のリース・割賦販売

沿革

◎昭和58年9月
福井銀行グループの総合リース会社として、
住商リース株式会社(現三井住友ファイナンス&
リース株式会社)との合併により
「福銀住商リース株式会社」設立
◎平成9年4月
商号を「株式会社 福銀リース」に変更



株式会社 福銀リース

□本 社 〒910-0024 福井県福井市照手1丁目2番17号
□金沢オフィス 〒920-0981 石川県金沢市片町1丁目5-20 金沢福井ビル5F
□敦賀オフィス 〒914-0054 福井県敦賀市白銀町11番1号

TEL:0776-27-5221 FAX:0776-27-5189
TEL:076-233-2301 FAX:076-233-2302
TEL:0770-25-0027 FAX:0770-25-0728

個人事業主様、中小企業オーナー様へ
法人カードがお勧めです。



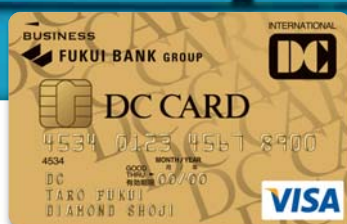
＜ 経理の合理化効率化が可能

＜ 仕事とプライベートの切り分けが明確に

＜ 効率的な資金運用

MAKE EFFICIENT

さまざまなシーンで業務の効率化が図れます!!



お申込みはお近くの福井銀行窓口まで。(福井銀行はDCカード、JCB法人カードの取次をしています。)

株式会社福井カード



〒910-0023 福井市順化1丁目2番3号 TEL.0776-21-7881 (9:00~17:00土日祝休み)

貸金業者登録番号:北陸財務局長(10)第00024号/包括信用購入あっせん業者登録番号:近畿(包)第10号
日本貸金業協会会員 第002758号/一般社団法人日本クレジット協会会員 第041340000号

福井カード

検索

お客さまにピタリとはまるピースを。

代金回収サービス「ふくいネット」

FUKUINET

全国のどの金融機関からでも迅速かつ正確に集金を代行処理する「ふくいネット代金回収サービス」。

お客さまの集金業務をよりスムーズに、より効率的にサポートしています。

システムインテグレーション

System Integration

ネットワークシステムのコンサルティングをはじめ、導入計画・運用管理・セキュリティ・クラウド導入・Web 開発など、あらゆるシステムサービスをお客さまに提供しています。

エレクトロニックバンキング

Electronic Banking

福井銀行グループの一員として、企業のお客さま向け及び個人のお客さま向けインターネットバンキングをはじめとする、エレクトロニックバンキングサービスの導入・サポートをしています。



福井ネット株式会社

〒918-8107 福井市春日町238-3 TEL: 0776-33-6618 (代)
<http://www.fukuinet.co.jp>



福井銀行は経営革新等支援機関です

経営革新等支援機関とは...

中小企業が安心して経営相談等が受けられるために、専門的知識や実務経験が一定レベルの者に対し、国が認定することで、公的な支援機関として位置づけられています。
福井銀行は平成24年11月5日に認定を受けました。

こんな悩みを抱えている方、ご相談ください！

自社の経営を
「見える化」したい
企業に密着した、きめ細やかな
経営相談から、財務状況、
財務内容、経営状況に関する
調査・分析をしたい

事業計画を作りたい
新商品の開発、新たな生産、
販売方式の導入、設備の導入、
新サービスの提供、
資金調達など

取引先を増やしたい
販売先を拡大したい

専門的課題を
解決したい
海外展開、技術的課題解決、
事業承継・M&A など

国県市町の
各種施策について
知りたい
補助金情報、税制情報、
セミナーなど

お問い合わせ・ご相談は 福井銀行 各営業店 もしくは 営業支援グループ ☎ (0776)25-8021 まで

編集後記

2016 桜花号

今回は、昨年の夏に福井県立大学と共同で実施いたしました「観光客アンケート」に関して、江川講師からの最終報告という形で本誌に掲載致しました。中間報告の際には、多方面の方より、さまざまな前向きなご意見をいただきました。今後もいろいろとオリジナルの企画も行っていきたいと考えておりますので、読者のみなさまのリクエストもいただけたら幸いです。

また、今回は3月に実施させていただきました景況アンケートの結果も掲載させていただきました。全体的に県内経済の方向性としては、やや悪化しているような結果となっており、今後の推移に注視していく必要があると思います。

最近、中国の景気減速の憶測や為替相場の不安定など、やや心配な報道も多くあるように感じますが、反面、中部縦貫自動車道や北陸新幹線の延伸、福井国体、東京オリンピックなどのイベントを控え、県内でも新たな取組がいろいろと見られるようになってきています。また、最近になり一億総活躍社会という言葉も登場しておりますが、まさに福井モデルが見直されているような気がします。その福井県が、これまで以上に元気になり、いっそう他県があこがれる地域となることを期待しつつ、地域金融機関として応援していきたいと思います。

(情報支援チーム チームリーダー 松浦 忠義)





福銀ジャーナル

2016年4月 桜花号

編集発行：株式会社 福井銀行 経営企画グループ 情報支援チーム
〒910-0023

福井県福井市順化1丁目3番3号（福銀センタービル）

Tel (0776)26-9847 Fax (0776)24-1213

URL <http://www.fukuibank.co.jp>



いつも、いつでも、いつまでも。

福井銀行